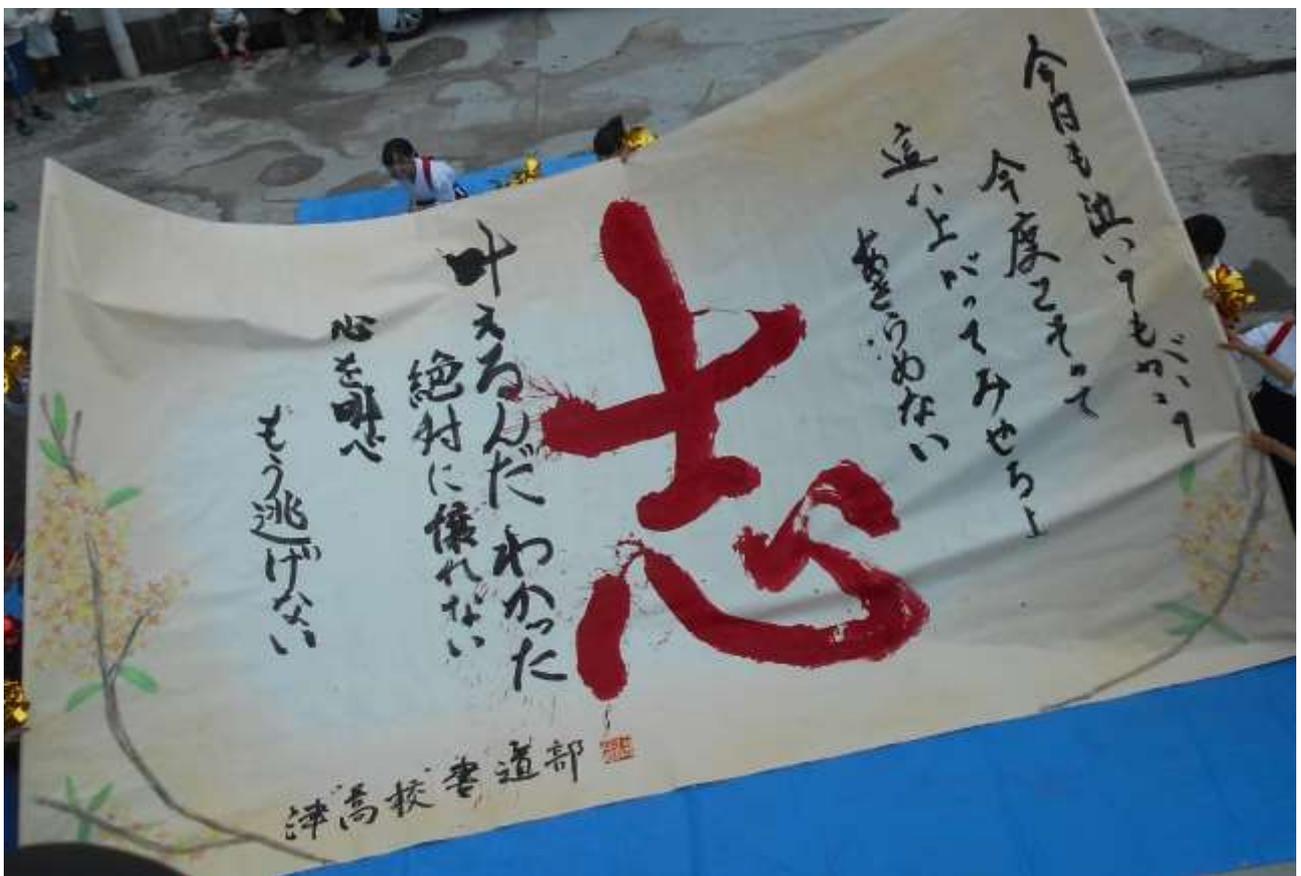


生き生き津高

Vol.20



文化祭 書道部によるパフォーマンス

三重県立津高等学校 2019. 3

1. 学校行事や委員会活動紹介

| | |
|------------------|----|
| 学校長の言葉 | 3 |
| スクールライフ | 4 |
| 生徒会活動・生徒会行事 | 6 |
| 修学旅行 | 9 |
| 東京大学キャンパスツアー | 11 |
| マレーシア研修 | 13 |
| SSH 台湾研修 | 16 |
| 探究活動 | 19 |
| キャリアプロジェクト「西村ゼミ」 | 22 |

2. 部活動紹介

| | |
|-----------|----|
| ボート部 | 23 |
| 書道部 | 24 |
| 新聞・写真部 | 30 |
| 音楽部 | 32 |
| 陸上競技部 | 33 |
| 卓球部 | 36 |
| 水泳部 | 37 |
| バドミントン部 | 40 |
| 剣道部 | 42 |
| 吹奏楽部 | 43 |
| 弓道部 | 44 |
| 硬式野球部 | 45 |
| 硬式テニス部 | 46 |
| ソフトテニス部 | 48 |
| サッカー部 | 49 |
| ソフトボール部 | 50 |
| ダンス部 | 51 |
| ハンドボール部 | 52 |
| バレーボール部 | 53 |
| バスケットボール部 | 56 |
| 軟式野球部 | 58 |
| ラグビー部 | 58 |
| 茶道部 | 59 |
| 軽音楽部 | 60 |
| 将棋部 | 60 |
| Jr. Com 部 | 61 |
| 美術部 | 62 |
| ジャグリング部 | 63 |
| 邦楽部 | 64 |
| 文芸部 | 64 |
| ホームライフ部 | 65 |
| クイズ研究同好会 | 66 |
| 国際交流同好会 | 67 |
| 演劇同好会 | 68 |

3. 個人活動紹介

| | |
|--------------|----|
| インターハイ 高校生活動 | 69 |
| 短歌 | 70 |
| 高校生ビブリオバトル | 71 |
| 英語スピーチコンテスト | 72 |
| 大阪国際音楽コンクール | 73 |
| ボウリング | 74 |
| 金融経済クイズ選手権 | 75 |
| 保健委員会 | 76 |
| 健康に関する作文 | 77 |
| 読書感想文 | 79 |
| 読書感想画 | 83 |
| フォトコンテスト | 85 |

多様性こそ強み～そこは「宇宙」。

三重県立津高等学校長

中川 弘文

「生き生き津高」は、本校の学校行事や生徒会活動、部活動等、本校生徒の一年の活動記録をまとめたものです。津高生にとっては、津高文化を振り返ることができる記録集であり、中学生のみなさんには親しみやすい学校案内としての役割を果たしています。2年前に改訂を行い、本校公式ホームページを通して閲覧可能な電子ファイルとしました。

津高の歴史は1880年、旧制の津中学としてはじまり、まもなく創立140年を迎えます。本校は、『自主・自律』の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校」を目指し、教育活動を展開しています。本物との出会い、多くの人との対話、探究活動を大切に、生涯を通して、主体的に学ぶための基礎づくり行っています。

本年度の学校案内ポスター（右）は1年生の生徒のデザインによるものです。津高校は宇宙で、生徒たちは無数のきらめく星たち。それが星座のようにつながる。過去にも未来にもつながっているかもしれません。つながりは様々な活動が生み出します。ひとり一人の個性や才能のちがいをお互いが認め合い、尊重し合う。切磋琢磨する中で、自分がやりたいことに気づき、自分を高め、夢をかなえることができる。多様性や自主性を重んじる本校のイメージが描かれています。多様性こそ津高の強みです。



本冊子において、生徒たちの生き生きとした姿をご覧いただき、津高の宇宙をお確かめください。

School Life

前期

4月

始業式・着任式・入学式、HR写真撮影
1年オリエンテーション
定期健康診断、面談週間、遠足
縦割りディスカッション、2・3年確認テスト

5月

前期生徒会役員選挙、定期健康診断
確認テスト、県総体、1・2年確認テスト

6月

中間考査、教育実習
東海総体、2年生修学旅行
1・3年校内模試、3年確認テスト

7月

2年校内模試、夏季レク大会
保護者会、「自分探し」、夏季課外

8月

夏季課外、「自分探し」
1・2年確認テスト、3年校内模試
中学生対象津高入門講座・見学会

9月

文化祭、期末考査



School Life

後期



芸術鑑賞、体育祭
後期始業式、防災訓練
面談週間
人権学習
後期生徒会役員選挙

10月

創立記念日(1日)
1・2・3年校内模試

11月

1・2年中間考査、3年学年末考査
3年特編授業

12月

1・2年確認テスト
大学入試センター試験

1月

SSH 研究成果発表会
1・2年校内模試、国公立大学前期試験
卒業を祝う会(同窓会)

2月

卒業式、1・2年学年末考査
国公立大学後期試験
春季レク大会、修了式

3月

「生徒会長を経験して」

2年 田路 祐也 (天栄中学校)

津高校は「自主・自立」のもと、有志の生徒が主体となって生徒会活動を行っています。仕事内容は主に対面式や体育祭、文化祭などの行事の企画、運営です。会長はその行事で挨拶をしたり、表彰伝達をしたりしています。学校内ではこれらの活動を通して、貴重な体験をすることが出来ます。また、外務活動にも力を入れ、東海地方や近畿地方の生徒会連盟や、全国を舞台として、他校の生徒会役員と生徒会活動についての議論や意見交換をする全国生徒会大会に参加しました。ここでは、自校と他校との悩みを共有したり、他校の良い活動を取り入れたりして、生徒会活動の質の向上や、モチベーション維持につながりました。

生徒会活動を通して一番印象に残ったのは、多くの人と関わっていく中で、人とのつながりがとても大切であるということです。僕は、人とのつながり無くして、生徒会活動は絶対に出来ないということを強く学びました。後輩たちには、自分と他の人との間に壁を作らないために、本音で言い合って高めあえる「津高の生徒会」を引き継いで、生徒会活動に励んでほしいと思います。

「レク大担当の役割について」1年 細野 凜 (附属中)

勉強をしすぎて、楽しいことに飢えている津高生が最も楽しみにしている行事の1つはレクリエーション大会通称「レク大」です。レク大は春と夏に3日間ずつ行われます。

この3日間は授業もなく、フリーなので、皆さんガチでこの「レク大」に臨みます。

「レクリエーション大会」なのに。

行われる種目はスポーツ系(バスケ、バレー、サッカーなど)と、テーブルゲーム系(オセロ、大富豪など)があります。さらに、見どころはガチな戦いをガチで応援するクラスメイトです。バスケで3Pシュートが入ったら「キャー」、サッカーでシュートが入ったら「キャー」、オセロで角をとったら「キャー」といった具合です。

最後にレク大担当の仕事についてですが、主な仕事は選手登録、会場のセッティング、審判と様々です。当日はみんなが楽しめるように動き回ったりするため忙しいですが、自分の競技のときには抜けてOKです。とても楽しく、やりがいのある仕事です。

「体育祭担当の仕事について」1年 倉田 翔伍 (久居中)



体育祭は、津高校の行事の中でも、3学年全員で一致団結する行事です。

騎馬戦やしっぽとり、大縄跳び、団対抗リレーなど、競技はバリエーション豊かで、どれも声援が飛び交い、何よりも白熱します。

その中でも120人競技は、それぞれの団が組み体操やダンスなどを考え、練習していきます。そのパフォーマンスは、どの団も素晴らしく、とても見栄えがあるものとなっています。

本番近くはかなり忙しくなりますが、とても仕事にやりがいを感じられます。本年度もより良い体育祭ができるよう、日々仕事に取り組んでいます。



「文化祭担当の役割について」 一年 前田明寛 (附属中)

文化祭は、二日間を通して行われる津高の一大行事です。初日は総合文化センターで行われ(非公開)、二日目は本校で行われます(公開)。私たち生徒会はその運営・企画を担当します

一日目の非公開の部では文化系クラブが発表し、津高独自の出し物である教員劇や有志発表もあり、盛り上がります。

二日目の一般公開の部ではクラスのみならず一致団結して模擬店を開いたり、一日目では発表しない文化系クラブも発表し老若男女を問わず、沢山の人が訪れます。私たち生徒会は、より多くの人に楽しんでもらえるよう各クラスの企画のチェックやパンフレットの作成・配布等を行い、企画を支える重要な役割を担います

生徒会は文化祭の一日目、二日目共に大変な仕事ばかりですが、成し遂げた後には、大きな達成感があり、やりがいがあります。



「津高校修学旅行2018 ～叫べ～」

修学旅行委員長 2年 小野 貴理人（西橋内中）

私たち修学旅行委員は、各クラス2人ずつと、数人のボランティアを含むメンバーで活動しました。活動内容は、行程の決定や、修学旅行のしおりの作成、そしてクラス内での修学旅行についての話し合いをリードしたりと様々なものがありました。また、クラスの代表として、旅行会社の方と、自分たちの行程は実際にその通りにいくのかなど、たくさんのことを話し合い、行程を確定させていきました。3泊4日で、コースも3種類に分かれているため、中学時代の修学旅行とは違いとても複雑でしたが、委員のみんな、2学年の生徒みんなの協力のおかげで、なんとかやり遂げることができました。自分たちの修学旅行を自分たちで作っていくのは、とても新鮮でわくわくして、大変貴重な経験になりました。修学旅行当日は、自分たちで決めた行程を思う存分楽しみ、全クラスが集まった3日目の夕食では、有志で様々な素敵な発表があったりと、かけがえのないたくさんの思い出が詰まった修学旅行になったのではないかと、思います。後日になっても、「もう1回修学旅行に行きたい！」などの声をたくさん聞き、それほどの修学旅行にできたという安堵感と達成感が、とても強く感じられます。しかし、これほどの修学旅行にすることができたのも、生徒のみんな、そして先生方や旅行会社の方の協力があったからこそです。修学旅行は本当にたくさんの人の協力があって成り立っているんだな、と改めて感じる事ができました。



私個人では、修学旅行委員長という大事な仕事を自分にできるのかという不安もありましたが、委員のみんなの協力のおかげで、楽しんでやりきることができたことが非常にうれしく思います。私は、今回修学旅行委員という仕事を通して、何事にも前もって計画を立てておくことの大切さを実感することができました。これからの生活にこの経験を生かし、より良い学校生活を送っていきたいと思います。

自分たちの修学旅行を自分たちで作る、そんな津高校ならではの修学旅行だったからこそ、私たちはかけがえのない最高の思い出を作ることができたと思います。これからもこのような修学旅行が続き、より良い修学旅行になっていくことを願っています。

修学旅行が終わってから、北海道で大きな地震が occurred。私たち修学旅行委員会は、校内で募金活動を行い義援金として送金する活動を行いました。

修学旅行日程表

三重県立津高等学校

ご旅行先：北海道 方面

ご旅行期間：2018年6月19日(火)～6月22日(金)3泊4日

| 日表 | 月日 (曜) | 行 程 | 宿泊地 |
|----|-------------|--|--|
| 1 | 6/19 (火) | 航空機分割授業 (正式ダイヤ未定) 学校====中部国際空港====新千歳空港====ノーザンホースパーク====サケのふるさと千歳水族館==== ルスツ(泊) 17:00 8:30 9:45 ANA703(166席)11:30 (昼食) 13:00 13:20 14:20 15:00 16:00 18:00頃 | 【ルスツ】 ルスツリゾート 【網走2泊】 網走観光ホテル 【函館】 ホテル函館ロイヤル |
| | | 学校====中部国際空港====旭川空港====旭山動物園==== 網走(泊) 2:55 9:30 11:00 13:00 ANA425(91席)14:45 15:15 15:45 16:30 20:20頃 | |
| | | 学校====中部国際空港====函館空港====トラピスチヌ修道院====金沢赤レンガ==== 函館(泊) 夕食後、函館夜景観賞 3:55 8:00 9:30 11:00 ANA487(127席)12:30 13:10 13:25 14:00 14:30 15:40 16:00頃 | |
| 2 | 6/20 (水) | ルスツ====骨董屋自然体験====ホテル昼食====サイロ展望台====昭和断山====中山峠==== 札幌(泊) 8:30 8:45 11:20 11:30 12:30 13:00 13:30 14:00 14:40 16:10 16:30 17:30 18:50 19:30頃 | 【札幌】 アパホテル&リゾート札幌 【釧路】 釧路プリンスホテル 【登別】 登別万世閣 |
| | | 網走====オホーツク水族館====博物館網走監獄====ウェスタン網走==== 釧路(泊) 8:30 8:45 9:45 10:00 11:10 11:30 (昼食) 13:00 14:20 15:40 17:00 17:40 18:15頃 函館====五稜郭公園====ドライブインかなや====洞爺湖====のぼりベトナム牧場==== 登別(泊) 8:30 8:50 9:50 11:45 (昼食) 12:15 13:45 14:35 15:30 16:30 16:45頃 | |
| 3 | 6/21 (木) | ホテル==== 特別クラス・特別研修【洞爺湖・旭川・富良野・札幌・トマムなど】 ====キリンビール====ホテル 9:00 19:30 21:00 21:20 | 【札幌】 ホテルモントレ札幌 |
| 4 | 6/22 (金) | 航空機分割授業 ホテル====小樽市内見学====新千歳空港====中部国際空港====学校 9:00 9:50 (各各昼食) 12:10 13:30 14:20 MAL3110(164席) 16:05 16:50 18:30頃 (4クラス) 14:05 15:05 ANA710(166席) 16:50 17:30 19:10頃 (1クラス) 16:20 17:20 ANA712(166席) 19:05 19:45 21:13頃 (4クラス) | |

●記入例 / J R 航空機 船 徒歩 観光バス ケーブルカー・ロープウェイ



東大キャンパスツアー

2018年7月18日～19日

目的

- ・東京大学を実際に訪れ、研修することで、大学での学びを知り、学問への興味関心を高める。
- ・津高出身の東大生から、高校での学習や受験勉強、大学生活について話を聞き、今後の生活をより充実させる。
- ・同じ津高生の仲間と積極的にコミュニケーションをとり、互いに切磋琢磨する存在となる。

参加生徒 1年生 44名



研修内容

7月18日（水）

○工学部コース

「ナノテクノロジーの将来」

幾原 雄一先生（大学院工学研究科総合研究機構 ナノ工学研究センター長

本校OB）による講義の後、グループに分かれて電子顕微鏡を使った実習、学生との懇談会等の研修。

○農学部コース

「農学とは」

久保田 耕平先生（大学院農学生命研究科准教授 森林動物学研究室 本校OB）
による講義の後、弥生キャンパス農学部とその周辺を散策、見学。

○現役東大生との懇談会

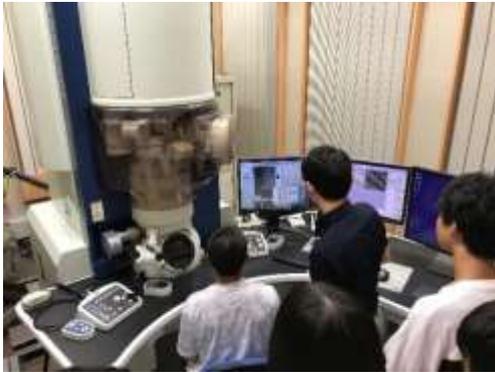
本校OBの東大生との交流。高校時代の学習方法や東大生の実態などについて積極的に質問をし、先輩からアドバイスやエールをいただく。

7月19日（木）

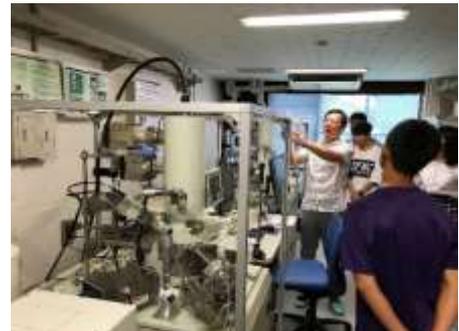
○「津高OBによる東大生活プチ体験」

東大を知り尽くした先輩たちによるオリジナルツアー。4グループに分かれ、先輩の案内で構内や東京の街を散策、探検する。大学での研究について、また東京生活について生の声を聞くことができ、ここでしか味わえない魅力的な企画となった。

参加した生徒の感想



工学部を見学したり講義を受けたりすることで、たくさんの新しいことを知ることができた。講義では先生のおっしゃることを必死で理解しようと思って受けることができた。また、施設の見学では、なかなか見ることでできない貴重な体験をすることができ、とても刺激になった。



巨大な電子顕微鏡や、世界でも最先端の顕微鏡を見ることができて、とても感動しました。また、騒音や振動、磁気による影響をなくするために巨大な装置を組んだり電流を流したりするなど、さまざまな工夫がされていたので、あらためて研究の奥深さを学ぶことができました。幾原先生に教えていただいたことを生かして、これからも勉強をがんばりたいです。



農学部は「農業」というイメージしか持っていなかったが、バイオテクノロジー、環境問題、遺伝子組み換えなど、幅広い分野にわたって研究できることがわかった。

ある仮説を検証するための研究が、予想どおりにならなくても続けていくと別の新たな発見につながり、成果を生むことがあると知って、「意味があるのか」「役に立つのか」よりも、自分のしたいことを

コツコツやり続けることも大事だということを学んだ。



マレーシア研修

<行程>

- 7月23日（月） 日本を出発！現地でホテル泊
- 7月24日（火） 現地女子校（SMK PUTERI TITIWANGSA）を訪問
ホストファミリーとドキドキご対面@パチタン村
- 7月25日（水） プトラジャヤ観光&ホストファミリーとゆったり過ごす
さよならパーティー
- 7月26日（木） 観光&機内泊
- 7月27日（金） 日本に到着！

【初日】

行ってきまーす！！

タイ航空の飛行機は甘い香り



現地ホテルに着いたのは日本時間の夜中 1:00

（現地時間 2:00）

「あしたも朝早いよ～！」

【2日目】

現地校でペアを組んで活動

伝統の遊び・食べ物・手にペイントなどを体験





ホームステイ先へGO!現地の楽器で大歓迎を受ける

【3日目】

ピンクモスク・首相官邸など



さよならパーティーだよ！全員集合！
手で食べる晩ごはん・楽器で合奏など楽しい夜



【4日目】

慰霊碑・昔の駅・ナショナルモスク
・ツインタワーなど



【最終日】

機内からの朝日はキレイだったなあ。



朝 9:00 セントレア到着「ただいま～」

海外でできなかった LINE を一斉に開いてみんなで感動。

内容の濃い 5 日間、楽しめました。

台湾研修 (12.12~12.15)



～プレゼン・フィールドワーク・ディスカッションを通して～



事前に日本で研究、準備したプレゼンを
英語で発表！

しっかり準備していたはずなのに、
英語が上手く伝わらなかったり、質問がよく分からなかったりと、
あたふたしてしまった…
伝えることの難しさと大切さが感じられた。



現地校の近くの川を見学

ただ見学して、感想を書いて終了ではなく…
感じた問題点を、どのような解決していくか
議論しあい、パワーポイントで発表！



スライドの構成をサラッと決めて
手際よく作る場所に経験の差を感じた。

全体的に、現地校の生徒も自主自律の精神を
持ち、明るく、学びに対して貪欲であった。
国際的な視野を身につける重要性が
改めて感じられ、
何よりも行動することが大切であると感じた。



SSH 台湾研修に参加して

2年 平野 百香 (白子中)

現地の交流校を訪れた際、現地校の先生や生徒は私たちを本当に温かく迎え入れてくださり、すぐに打ち解けることができました。それぞれの高校からの研究発表では、質疑応答も活発に行われ、考えの幅や視野が広がったように感じました。より身近なところから研究動機を得て、それを発展させ社会貢献

に繋げていくことの重要性を再認識することができました。2日目には現地校の生徒と共に、フィールドワークに参加しました。現地の自然や伝統を肌を感じ、お互いにコミュニケーションを取りながら学ぶことは非常に刺激的な経験でした。また、その後のディスカッションでは、両校の生徒がグループになり、学んだことから問題点を見出し、まとめ、即興でプレゼンテーションを行いました。どのグループも柔軟な発想やアイデアに溢れていました。お互いに英語が母語ではないため、間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションを取ることができました。何よりもお互いの考え方や文化が異なることで、意見を交わせば交わすほど創造力が増していくようなそんな感覚を抱きました。この研修を通して、一つの課題に協力して取り組むことの楽しさや自分の意見を持つと同時に、相手の意見を尊重することの大切さを実感することが出来ました。この経験を自分のこれからの学校生活や、進路決定に繋げていきたいです。

探究活動

津高校では、全校生徒が3年間にわたって探究活動に取り組みます。研究テーマの設定から研究の進め方、実験・調査の方法まで生徒主体で研究を進めていきます。人文科学・社会科学・自然科学の分野を問わず、自分の知りたいことをとことん研究できます。

1年生

探究の基礎づくり(「リベラルアーツ」)、夏季フィールドワークや試行的な課題研究などとおして「探究」のための基礎的知識や技能を習得します。



2年生

1学年時に取り組んだ内容を基礎として、本格的に研究を進めていきます。大学の研究室や企業等を訪問するなど、より専門的な知識・技能を習得し、研究を深めていきます。そして、SSH児童・生徒研究発表会で研究成果を発表します。



3年生

研究成果を論文にまとめ、学会等で発表することとおして、高校卒業後の学びにつなげていきます。

「探究活動を通して・・・」

私達は、「フタホシコオロギのオスとメスはどちらが長生きするのか」というテーマで研究をしてきました。この研究を3人で協力して行っていく中で、多くのことを学びました。

また、SSHの全国大会をはじめとした研究発表会に参加させてもらいました。日本国内の高校生だけでなく、海外の生徒との交流もあり、探究活動を進めることが自分たちの考え方を広げることにつながりました。

「フタホシコオロギのオスとメスはどちらが長生きするのか」

- ・みえ自然科学フォーラム 2017 (2/17) 口頭発表部門 最優秀賞
- ・SSH 東海フェスタ 2018 (7/14) 口頭発表部門 優秀賞
- ・平成三十三年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会(8/8,9)
ポスター発表賞、生徒投票賞
- ・第六十二回 日本学生科学賞 三重県審査委員会(10/7) 最優秀賞三重県総合博物館賞



2年 水口 汰樹 (香海中)

「動画での観察は大変でしたが、まとまったデータが得られた後の考察は楽しかったです。あとは、発表に行った先での他校生とのコミュニケーションは、異なる視点からの新しい発見が多く、とても良い経験でした。」

2年 青木 絢史 (平田野中)

「特に印象に残っていることは、全国大会でのポスター発表です。私たちの研究を伝えるだけでなく、他校の素晴らしい発表を聞き、「対話」が出来たことも非常に良い経験になりました。」

2年 植村 紗希 (赤目中)

「今まで賞を頂いたことが無くて賞を頂いたときは大変驚き、大いに喜びました。また、発表に行った先でた

くさんの興味深い研究を見て、色々なことを考えたり、知ったりして自分の糧になったと思います。」

津高校は文部科学省より科学技術・理科・数学教育を重点的に行う学校「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受け、将来、国際的に活躍する科学技術系人材を育成するための取組や、大学・企業等と連携した教育を推進しています。

津高キャリアプロジェクト「西村ゼミ」

三重大学教授・西村訓弘先生の指導のもと、「三重県の活性化」「起業家マインド」などをテーマに、「若者が自分の夢を叶えることができる場所として三重県を選ぶようになるためにはどのような施策が必要か」をゼミ形式で討論し考えをまとめ、班別に提案書をつくるという活動をしています。

今年度は「10年後の津市をデザインする」というテーマをかかげ、「地元を離れた若者たちが戻ってきたいなる活気あふれる街にするにはどのような施策が必要か」ということについて考えました。参加15名の生徒を3班に分け、それぞれの班が独自のテーマを設定し、研究を行いました。フィールドワークの一つとして、西村先生にご紹介いただき、三重大学で開催された「地域イノベーション学会」に参加したり、(株)浅井農園を訪問し、トマト栽培における最先端農業を見学させていただくなど、見聞を広げました。また、3月20日津市の前葉泰幸市長に報告し、提案書を提出しました。

各班のテーマ

- 1班「メディカルマッチ」：医療現場の雇い手と働き手をつなぐ架け橋となる。
- 2班「津市キャリアワンサイクル」：10年後に津市を担うであろう高校生に津市で働く価値を見いだしてもらい、10年後も津市を担うであろう大人に新たな機会を提供する。
- 3班「Agriculture×Management」：アプリの利用で新規農業参入者を増やし、津市の農業活性化をはかる。

参加生徒の感想

- ・グループの仲間と意見を出し合いながらより良い案を作るのは、驚きや勉強になることばかりで、とても新鮮で楽しかったです。自分で自分の考え方が良い方向に変化しているのが感じられて、嬉しかったです。また、ゼミを通してすてきな友だちに出会えたこともよかったです。
- ・学年関係なく積極的に意見したり、スライド作成に取り組むことができました。今の現状では、何が問題なのか、何を根拠にした情報、主張なのか、など西村ゼミに参加できたことで得ることがたくさんあって、とても充実していたと思います。
- ・自分たちが考えることに何が必要であるか、どうしたらいいかなど、参加する前よりも深く考えるようになったと思う。将来、西村ゼミでやったようなプレゼンテーションをする機会が多いと思うので、そのときに役立てられる力を身につけられたのではないかと感じる。
- ・スライド作りなど、効果的に相手に伝える能力が身についた。社会にはたくさん問題があるということを再認識することができた。
- ・西村ゼミに参加して、私が最も向上したと思う点は、新たに発生するであろう課題を予測し、改善する力だと思います。この力は、誰かと一つのことを企画するような探究活動や、様々な発表の場面で生かしていきたいと思います。



ボート部

since 1887

活動内容 30年度例

- 4月 体験入部・試漕会
- 5月 琵琶湖遠征(GW)
県総体兼インターハイ予選
- 6月 東海高校総体
- 7月 国体東海予選
- 8月 インターハイ(3泊4日愛知県)
夏季合宿(2泊3日大台町)
- 9月 県新人大会 国体(福井県)
- 10月 東海高校選抜大会(愛知県)
- 1月 ウインターカップ(大阪府)
全国マシローイング近畿大会(滋賀県)
- 3月 春季合宿(3泊4日名古屋市)

練習時間

月～金 16:20～18:30
土 8:00～12:30
(試合前は1日練習あり)
日 休み
部室 111

H30年度 主な戦績

- ・U-19日本代表に女子選手1名が選出されています。ドイツ、フランス、チェコ、香港、韓国など多くの国際レースに出場しました。
- ・三重県高校総体
男子 総合 **11年連続優勝**
女子 総合2位
- ・三重県高校新人大会
男子 3種目 **優勝**
女子 2種目 **優勝**
- ・東海総体
女子ダブルスカル **6位**
- ・全国総体
男子クォドルプル、女子シングルスカル、ダブルスカル3種目で**準々決勝進出**
- ・東海高校選抜大会
男子ダブルスカル **3位**
女子ダブルスカル **3位**

「ボート部に入部して」 1年 太田 ゆい(鼓ヶ浦中)

私は、ボート部に興味を持ったのは入学直後でした。中学の先輩がいて、面白そうと思い入部しましたが、反面、初めての競技で不安もありました。しかし、先輩に教えてもらいながら、練習・大会・合宿を乗り越えていくうちに不安はなくなりました。

部員は男女ともに仲がよく、みんなで切磋琢磨し、うまくいかないときにも部員同士で声を掛け合って困難を乗り越えていく雰囲気がある、暖かい充実した環境で日々練習に打ち込んでいます。ボート自体にも、とても魅力があります。自分で漕いだ船が水の上を滑っていき、スピードが出ると風を感じる。こんな経験はそうは簡単に味わえません！ 私たちと一緒にボートを楽しみましょう！！



3 書道部

◇新入生歓迎パフォーマンス(4月)



◇書道パフォーマンス津新町夏祭り(8月5日)



◇第42回全国高等学校総合文化祭長野大会(8月8日~8月9日)まつもと市民芸術館

山脇 麟神(3年)「臨 粘葉本和漢朗詠集」作品出品



◇文化祭（9月9日）



◇書道パフォーマンス 津ドライビングスクール（9月16日）



◇第19回高校生国際美術展

佳作 秋山 あみり(2年)
大宅 美鈴(2年)
下村 珠里奈(2年)
平井 咲良(2年)

◇第39回みえ高文祭書道部門(11月2日~4日) 三重県文化会館第1ギャラリー

特選 2年 竹内 凜「臨 吳昌碩 石鼓文」

第43回全国高等学校総合文化祭佐賀大会(平成31年7月唐津市)への出品権を獲得



◇第38回近畿高等学校総合文化祭徳島大会(11月17日) あわぎん文化ホール

2年 樋口 凜 「臨 香紙切」 作品出品



◇第17回岐阜女子大学全国書道展

三重県教育委員会教育長賞 江藤 千裕（2年） 「臨 針切」

◇第13回津市民美術展覧会

あなたが選ぶ～第13回市展賞～ 下村 珠里奈（2年）

◇第26回国際高校生選抜書展（書の甲子園）

団体の部 東海地区 優勝

***第91回選抜高等学校野球大会出場校名プラカード文字揮毫**

「津田学園」「龍谷大平安」「福知山成美」

個人の部 優秀賞 樋口 凜（2年）
秀作賞 竹内 凜（2年）
平井 咲良（2年）
入 選 秋山 あみり（2年）
江藤 千裕（2年）
大宅 美鈴（2年）
下村 珠里奈（2年）
白井 愛梨佳（2年）
山本 大雅（2年）
岡山 美凧（1年）
晒名 いろは（1年）
高橋 直弘（1年）
辻 悠花（1年）
松井 瑠璃（1年）
山下 実沙稀（1年）



◇第23回全日本高等学校書道コンクール（2月1日）

準大賞 江藤 千裕（2年）
全日本高等学校書道教育研究会賞 秋山 あみり（2年）

◇第45回書道部門生徒教員展（2月2日～3日）三重県立美術館 県民ギャラリー

出品者 岡山 美凧（1年） 「臨 楊峴 行書鄭珍詩二首」
高橋 直弘（1年） 「臨 吳昌石 臨張遷碑額」
辻 悠花（1年） 「臨 石山切伊勢集」

「第38回近畿高等学校総合文化祭徳島大会に参加して」 2年 樋口 凜（天栄中学出身）

今回、「近畿高等学校総合文化祭」に参加させていただきました。私はこのような県外の大会への参加は初めての体験で、昨年度の「生徒教員展」で特選をいただいてから、とても緊張していましたが、同時に楽しみでもありました。会場に着き、「近畿展・徳島県内展」を鑑賞していると、緊張はいつしか消え、書道の世界に入り込んでいました。

今回の大会には仮名作品が少なく残念ではありましたが、仮名作品で多くの方が制作されていた中務集の臨書作品から、線の質や、全体のまとまりを中心に、自分の作品にいかせる部分を十分に鑑賞することができ、向上心に繋がりました。また、漢字作品では、黄庭堅の松風閣詩巻の臨書作品が多く、同じ古典の臨書作品を見比べることによって、構成や、余白の大きさなどを考えるきっかけを得ることができたと思います。

交流会では、徳島県の方々がたくさん準備をしてくださり、楽しく揮毫し、他府県の方々と交流することができました。徳島県産の杉や阿波和紙、藍の墨を使った作品は、ここでしかできない特別で贅沢なものとなり、今までの私の作品の中でも大切な記念品にすることができました。

また、講評会では、先生がひとつひとつの作品の良い点を中心に講評してくださいました。特に臨書作品の古典の説明からは新たな発見を多く得ることができました。

私は臨書作品の制作にあたって「みる目」を養うことがとても大切なことだと考えています。この大会での作品の鑑賞や、交流会、講評会のすべてが自分の目を養うことに繋がったので、私にとって最高の一日を過ごすことができました。これから書道が続けるうえで、この経験をいかして、たくさんの展覧会で作品を鑑賞し、良い点を自分の作品に積極的に取り入れていこうと思いました。

「第27回国際高校生選抜書展（書の甲子園）で二連覇して」 2年 江藤 千裕（一身田中学出身）

「書の甲子園で東海地区優勝を果たす」これが今年の津高校書道部の大きな目標でした。なぜなら去年の書の甲子園で東海地区優勝を果たしたからです。昨年私は1年生で、入部して半年と短い期間であったため、部としての活躍よりも自分の作品について考えることを優先しており、先輩方に頼り切っていました。しかし2年生になった今年は、書道にかける思いが強まり、後輩ができたことで先輩としての姿を見せる必要が出てきて、さらには優勝連覇がかかっているというプレッシャーを感じていました。これは2年生全員が感じていたことだと思います。また私には、部長として部を引っばるという意気込みがある一方で、それが私にできるのかという不安とプレッシャーがありました。しかし私たちはそんなプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、自分にできるベストを尽くしました。時間には限りがあり、書道が大好きな私たちであっても、ずっと書道ができるという訳ではありません。作品を仕上げるのは大変でしたが、それぞれが時間のない中で、毎日地道に取り組み、作品を完成させました。

そんな私たちに先生から東海地区優勝の報告をいただいたときは、本当にうれしくて、同時にこれまでの努力が報われたと感じました。これは先輩方の思いを受け継いだ2年生による1年生への声かけやアドバイス、それに応えてくれた1年生、そして熱心にご指導くださった先生方のおかげであり、一丸となって挑んだ結果

です。さらにこの書展のために関わってくださったすべての方々に感謝したいです。今回の経験を基にして、これからも様々なことに挑戦していきたいです。

「第42回全国高等学校総合文化祭長野大会に参加して」

3年 山脇 麟神（橋南中学出身）

書道の大学に進む、という大きな目標の為に全国高等学校総合文化祭への出品は、越えなければならぬ大きな壁でした。

全国大会出品の報告をいただいた時には、古筆と向き合い、悩み続けてきた事が、認められたような気がして、安堵しました。しかし、課題は山積みでした。その解決の為に、顧問の先生だけではなく他校の多くの書道の先生に助言を頂きました。全国への出品ぎりぎりまで書いたにもかかわらず、作品は拙いものになり、汗顔の至りでした。

全国大会の当日、どれだけ高い質の作品があるのかと、大きな期待を胸に展示会場に行きました。臨書から創作、その中でも保守的な作品から攻めたものもあり、その多様さに驚かされました。それぞれの作品において、長所、短所を見つけながら鑑賞することで、自分では思い付かないような事を知ることが出来たりして、中には自分はこの古典を手中にしたという思い込みからか、行き過ぎた拡大解釈ゆえに、見苦しいと思われるような作品も多く見受けられ、非常に残念でした。

この大会を通じて考えさせられた事は、いかに古典と向き合うかという事です。何千年、何百年という時の荒波に淘汰されずに残って来た古典作品には、恐ろしい力があります。今回、展示が行われた松本市美術館で、清代の書家である徐三庚の実物を見ましたが、その底知れぬ力に身震いしました。今は歴代の偉大な書家達に少しでも近づけるよう、精進して参る所存です。

いつも熱心に指導し、後押しして頂きました、顧問の先生、三重県の多くの書道の先生方や、支えてくれた書道部員、家族には本当に感謝しています。ありがとうございました。

新聞・写真部

- ◇第42回全国高校総合文化祭長野大会…参加
- ◇第37回高校新聞コンクール（三重県）…最優秀賞受賞 2018年11月4日
- ◇三重県高文連新聞部門 紙面技術講習会…参加〔於：津高（6月）〕
- ◇三重県高文連新聞部門 夏期講習会（インターハイ取材）…参加〔於：津・伊勢・四日市（8月）〕

- ◇第38回近畿高校総合文化祭徳島大会…参加

全国高文祭新聞部門参加報告 2018年8月7日～9日

「新聞作成の難所と醍醐味」

2年 鎌田健太郎（創徳中出身）

新聞部にも全国大会なるものがある、そんな事実に入部したての私は驚いた。たかが校内新聞、されど校内新聞、その紙面技術をお互いに刺激し合う、それが総文祭新聞部門の目的 だったんだ…と、終わってしまった今では重々思うものがある。

私は真田氏ゆかりの地として名高い長野県松代地区にて、観光客を呼び込むためのまちづくりに奮闘する地元のNPO団体や、真田丸ブームが落ち着いたことに不安を感じる観光施設の方に取材を行った。事が事なだけに慎重な取材かつ限られた時間の中でどれだけ収穫を得られるかが鍵となったが、班員のサポートもあって何とか乗り越えることができた。

相手の心情や思いを制限字数内に収めるのは案外難しいものがあり、それが深刻な問題ならばなおさらである。その中で必要な状況を取捨選択し、真実を伝えていく。新聞部なんだから当たり前のことに思えるが、取材相手の語りの裏には壮大なストーリーが眠っているのだ。どうしても伝えなければならないこととは何か、どう書いたら彼らの力になれるのか、それを悩むのが新聞作成の難所であり、醍醐味でもある。もちろん虚偽の情報を載せることは許されないが、相手の気持ちに寄り添って一字一字を丁寧に仕上げていく。これは「全国だから」感じる緊張感であって、普段の学校での取材とは一味違うものがあった。

また、取材ないし新聞作成を通して班員のコミュニケーション力の高さにも驚いた。自分が何をすべきなのかを考え、皆着々と作業を進めていく。キャプションの矢印はどうするのか、レイアウトの配置はこれでいいのか、話題が次々出てくる。時には関係のない話で盛り上がりもする和やかな空間だった。それでもトントン拍子に作業が進むのだから、皆全国大会に参加するだけはある。ただ言われてやるだけでなく、自らが参加して班員で作り上げていく。その中でもたとえ初対面であろうが楽しむ心。同じ高校生、そして同じ新聞部員として見習わなければならないことだらけのように感じた。

たった3日間の短い総文祭だったが、手元の交流新聞を見ればその記憶も鮮明に蘇る。形に残るのも他の報道媒体にはない新聞の強みだ。交流新聞の作成を通じて様々な知恵と経験を得た今回の参加であった。

近畿高文祭新聞部門参加報告 2018年11月10日～11日

「徳島大会に参加して」

1年 辻颯太（朝陽中学校出身）

今回私がこの大会に参加して最も良かったと思えたことは、他県の新聞部の生徒の記事の書き方を学ぶこと

ができたことである。新聞における文章の書き方は部活の先輩方や顧問の先生方から教わったものしか知らなかったの、同じグループの生徒が書いた記事を見て、こういう書き方もあるのか、と新鮮に感じた。

他にも、同じグループの生徒が持参してきた他県の学校新聞を見て、レイアウトの仕方を学べたことも大きかった。来年は先輩方が部活から引退されるため、自分たちが新聞のレイアウトを担当しなければならない。そのため、来年からの参考にできたらいいと感じた。

また、新聞の技術面以外でも、普段三重県で生活していると知ることのない、徳島という土地の魅力に触れることができた。私は今回、阿波おどり会館に取材に行ったが、そこで、今まで気にもしなかった阿波踊りへの興味が湧いた。記事作りの際も、私は徳島の川を紹介する記事を担当したのだが、調べれば調べるほどその魅力を知ることができ、記事を書くのが楽しかった。

今回の経験を通して得られたことを、これからに生かしていこうと思う。



音楽部

来年度創立 70 周年を迎える長い歴史と伝統を持つクラブです。部員同士が切磋琢磨しながらも仲良く活動に励んでいます。今年度は悲願の全国大会出場を果たし、金賞及び部門 2 位にあたる長野県知事賞を受賞しました。また、小学校や福祉施設等での訪問演奏、部主催のコーラスコンサートなど、各種演奏活動も積極的に行っています。

◇平成 30 年度第 85 回 NHK 全国学校音楽コンクール三重県コンクール (8 月 4 日)

○ 銀賞

◇平成 30 年度第 58 回三重県合唱コンクール (8 月 11 日)

○ 金賞・全日本合唱連盟理事長賞 県代表

◇平成 30 年度第 71 回中部合唱コンクール (9 月 22 日)

○ 金賞 中部支部代表

◇平成 30 年度第 71 回全日本合唱コンクール全国大会 (10 月 27 日)

○ 金賞・長野県知事賞

◇平成 30 年度第 30 回三重県合唱アンサンブルコンテスト (2 月 2 日)

○ A チーム 金賞 最優秀賞

○ B チーム 金賞 優秀賞

◇第 42 回津高音楽部コーラスコンサート (3 月 30 日)



陸上競技部

【全国大会】

◇2019 日本室内陸上競技大阪大会 (2月2日～3日)

女子600m (U18) 出場 1年 魚住 るり (西橋内中)

【東海大会】

◇東海新人陸上競技大会

女子400m 1位 1年 魚住 るり (西橋内中)

【三重県大会】

◇三重県高等学校陸上競技春季大会 (5月5日～6日)

女子200m 3位 1年 魚住 るり (西橋内中)

◇三重県高等学校総合体育大会陸上競技の部 (5月25日～27日)

女子400m 1位 1年 魚住 るり (西橋内中)

男子5000mW 8位 2年 山本 泰成 (西郊中)

◇三重県陸上競技選手権大会 (7月7日～8日)

少年女子B1000m 1位 1年 魚住 るり (西橋内中)

◇三重県高等学校新人陸上競技選手権大会 (9月22日～23日)

…6位までの入賞者は東海高等学校新人陸上競技選手権大会出場

女子200m 1位 1年 魚住 るり (西橋内中)

女子400m 1位 1年 魚住 るり (西橋内中)

男子5000mW 1位 2年 山本 泰成 (西郊中)

女子3000m 3位 2年 市川 巴菜 (鼓ヶ浦中)

男子5000m 6位 2年 山下 熙莉杏 (橋南中)

男子1500m 7位 2年 山下 熙莉杏 (橋南中)

女子1500m 7位 2年 市川 巴菜 (鼓ヶ浦中)



…6位までの入賞者は東海総体出場

◇三重県高等学校駅伝競争大会 (11月11日)

男子総合8位

- | | | | | | |
|----|----|-------------|----|----|-------------|
| 1区 | 2年 | 山下 熙莉杏(橋南中) | 2区 | 2年 | 池内 一真(西橋内中) |
| 3区 | 1年 | 山際 涼介(橋南中) | 4区 | 2年 | 小淵 稜央(西橋内中) |
| 5区 | 2年 | 木下 真杜(橋南中) | 6区 | 2年 | 池辺 翔真(西橋内中) |
| 7区 | 2年 | 小倉 拓(橋南中) | | | |



「走って、走って、また走る」(東海大会出場報告) 2年 市川 巴菜 (鼓ヶ浦中)



よく「走っていて何が楽しいの?」と聞かれる。私はすぐに「楽しくはないよ。」と答える。体に鞭を打って走っているのだから、苦しいに決まっている。顧問の先生からも「お前はきついことをしているんや。」と言われることがある。そこで一旦くじけそうになっていた自分と対峙し、己を再度奮い立たせるのだ。津高陸上競技部にはそうしたことが可能な空気があると感じる。もちろんその大きな要因は仲間と顧問の先生の存在であるが、自分自身もその空気を作り出す一員として自覚し、行動していくことが必要だ。

毎日このチームで努力してきたことが、東海新人に出場できたことで報われた気がした。支えてくれた仲間や先生、家族に心から感謝をしたい。満足のいくレースとはならなかったものの、東海総体出場への思いを強めることができた。まだまだ私には甘えがある。それに打ち勝つため、謙虚さを忘れずに努力を積んでいく覚悟だ。

仲間がいて、先生がいて、そして自分がいて、みんなで陸上競技部を作り上げていく。なぜならここは、「頑張れる場所」。だから私はやはりどれだけ練習がきつくても、走ることをやめられない。

「東海大会出場について」(東海大会出場報告) 2年 山下 熙莉杏(橋南中)

自分は陸上競技を高校から始め、当初は東海大会に出られる選手になるとは思っていませんでした。最初はどの競技が自分に適しているかわかりませんでしたが、最初の県総体で顧問の先生に5000mを選んでいただいたことで、そこから練習に没頭し、今回東海大会に出場できる選手になりました。

陸上競技部では、試合がなければ毎週日曜日が完全休養日であり、土曜日にも午前練習のみであるので、勉強にも集中して取り組むことができました。部活動と勉強をしっかりとやることで、両方で成績が上がりました。

今後も、たくさんの仲間と楽しい学校生活が過ごせると思っています。



卓球部

◇平成 30 年度全国総体兼東海総体卓球競技三重県予選会

シングルの部三重県大会 (H30. 5. 3)

男子 4 名・女子 2 名 中勢地区予選通過県大会出場

ダブルスの部三重県大会 (H30. 5. 6)

男子 4 組・女子 3 組 中勢地区予選通過県大会出場

学校対抗(団体) の部 (H30. 5. 26)

男子 5 位(ベスト 8)

◇第 73 回国民体育大会卓球競技三重県第 1 次選手選考会

少年女子の部 (H30. 6. 30) ベスト 16 奥川奈桜(2 年 嬉野中)

◇平成 30 年度三重県高等学校卓球選手権大会

シングルの部三重県大会 (H30. 8. 22)

男子 5 名・女子 3 名 中勢地区予選通過県大会出場

ダブルスの部三重県大会 (H30. 8. 21)

男子ベスト 16 阪 僚太(1 年 朝陽中)・諏訪達也(1 年 西橋内中)

◇第 58 回東海卓球選手権大会 (H. 30. 11. 9 サオリーナ) 出場

ジュニア男子シングルの部県代表

小野貴理人(2 年 西橋内中) 木村浩樹(2 年 久居東中) 田路祐也(2 年 天栄中)

旭田侑司(1 年 南が丘中) 阪 僚太(1 年 朝陽中) 諏訪達也(1 年 西橋内中)

ジュニア女子シングルの部県代表

森田彩矢(2 年 南が丘中)



◇平成 30 年度三重県高等学校新人卓球大会

個人の部(学年別) 三重県大会 (H31. 1. 26)

男子 7 名・女子 4 名 中勢地区予選通過県大会出場

1 年男子ベスト 16 仲村聡太(1 年 久居東中)

学校対抗(団体) の部三重県大会 (H30. 11. 16)

男子 5 位(ベスト 8)

「東海卓球選手権大会に出場して」 2 年 小野貴理人(キャプテン・西橋内中)

私は 11 月 9 日に行われました東海卓球選手権大会に、三重県代表の 1 人として出場させていただきました。部としても計 7 名もの人数が出場できたことがとても嬉しかったです。その中でも 3 人は 1 年生での東海大会出場、私を含む 2 年生は昨年誰 1 人として果たせなかったことなので、部の上級生としてとても頼もしく、また誇らしく思います。私自身の結果は初戦敗退で終わってしまいましたが、滅多にない他県の選手との試合、また全国トップレベルの選手たちのプレーを生で見ることができたことは、とても貴重な経験で、自身の成長につなげることができたのではないかと思います。

この東海大会での経験を生かして、後輩たちに負けないように、引退まで精いっぱい頑張ると共に、部全体としても、目標の「県内ベスト 4」に向けて、皆で成長していきたいと思います。



水泳部

【2018年度競技成績】

《三重県高校総体水泳競技大会》2018/6/26/27 三重交通グループスポーツの杜鈴鹿

《女子》

- 藤本晴香（3年生）400m個人メドレー4位
- 齋藤美月（2年生）100m背泳ぎ5位／200m背泳ぎ4位
- 河野友香（2年生）100m自由形7位／200m自由形4位
- ◆400mフリーレー6位
- ◆800mフリーレー5位
- ◆400mメドレーレー7位

《男子》

総合 第2位

- 飯田奨之（3年生）100m背泳ぎ8位／200m背泳ぎ5位
- 織田大世（2年生）100m自由形5位／200m自由形3位
- 横山稀帆（2年生）1500m自由形5位／100m背泳ぎ3位
- 奥田幸登（1年生）100m平泳ぎ7位
- 横山栞優（1年生）100mバタフライ2位／200mバタフライ2位
- ◆400mフリーレー2位
- ◆800mフリーレー3位
- ◆400mメドレーレー2位

***上記選手は、**東海高校総体**出場資格を獲得し

2018年7月19日～21日愛知県日本ガイシスポーツプラザに
参加して参りました。

【部員構成】

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | マネージャー | 計 |
|----|-----|-----|-----|--------|-----|
| 女子 | 0人 | 6人 | 1人 | 2人 | 9人 |
| 男子 | 8人 | 6人 | 2人 | 0人 | 16人 |

*上記には、8名がスイミングクラブでも登録している。

【本年度参加主要大会】

- ◇ 高校体躯連盟関係
 - 高等学校総合体育大会水泳競技会（6月）
 - 高等学校対抗水泳競技大会（8月）
 - 高等学校新人水泳競技大会（9月）
- ◇ 三重県水泳連盟関係

三重県短水路選手権 (6月・11月)
 三重県選手権水泳競技大会 (7月)
 三重県ジュニアオリンピックカップ 水泳競技大会 (6月・2月)
 JSCA 新年フェスティバル (1月)

【その他の活動】

合同練習／春休み、冬休み
 遠征練習／夏休み
 合同合宿／春休み
 単独合宿／ゴールデンウィーク、週末、GW等の連休など



↑即席お風呂 (本校プール) ↓



↑遠征練習



↑プール掃除風景



↑日常の練習風景



合同練習



合同練習風景 (ドライランド)



觀流寒中水泳（1月、阿漕浦海岸）

バドミントン部 (男・女)

平成 30 年度の結果

三重県高校バドミントン選手権大会 (全国総体県予選)

男子団体第 3 位 (5 月 25～27 日参加 40 校) **東海総体出場**

女子団体第 5 位 (5 月 25～27 日参加 44 校)

男子 1 部複ベスト 8…正木唯斗 (南が丘)・小寺星瑠 (南が丘)

男子 1 部単ベスト 8…正木唯斗 (南が丘)

三重県高校バドミントン新人大会

女子団体第 5 位 (2 月 9～10 日参加 74 チーム)

男子 1 部複ベスト 8…木村涼真 (名張南)・菅尾翼 (南が丘)

三重県高校バドミントン秋季大会 (全国選抜大会県予選)

男子団体第 5 位 (11 月 10.11 日参加 41 校)

女子団体第 5 位 (11 月 10.11 日参加 44 校)

男子 1 部複ベスト 8…木村涼真 (名張南)・菅尾翼 (南が丘)



過去の主な結果

平成 23 年度

三重県高校バドミントン選手権大会 (全国総体県予選)

女子団体第 2 位 **東海総体出場**

三重県高校バドミントン新人大会

男子団体第 3 位

女子団体第 5 位

男子 1 部単準優勝・男子 1 部複優勝

三重県高校バドミントン秋季大会 (全国選抜大会県予選)

男子団体第 3 位 **東海選抜大会出場**

女子団体第 3 位 **東海選抜大会出場**

男子 1 部単準優勝 **東海選抜大会出場**・男子 1 部複準優勝 **東海選抜大会出場**

平成 24 年度

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 男子団体第 3 位
 - 女子団体第 3 位 **東海総体出場**
 - 男子 1 部単準優勝 **全国総体出場**・男子 1 部複第 3 位
 - 女子 1 部複第 3 位
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 女子団体第 5 位
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 女子団体第 5 位

平成 25 年度

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 女子団体第 5 位
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 男子団体第 3 位
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 男子団体第 3 位

平成 26 年度

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 男子団体第 3 位
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 男子団体第 3 位
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 男子団体第 3 位

平成 27 年度の結果

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 男子団体第 5 位
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 女子団体第 5 位
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 女子団体第 5 位

平成 28 年度の結果

- 三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）
 - 男子団体第 5 位
- 三重県高校バドミントン新人大会
 - 男子団体第 3 位
- 三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）
 - 男子団体第 3 位（参加 42 校） **東海選抜大会出場**

平成 29 年度の結果

三重県高校バドミントン選手権大会（全国総体県予選）

男子団体第 5 位

三重県高校バドミントン新人大会

男子団体第 3 位

男子 1 部単第 3 位

三重県高校バドミントン秋季大会（全国選抜大会県予選）

男子団体第 3 位

私たちは男女で、ほぼ毎日活動しています。

男女で活動しているので、他の部活にはない楽しさがあります。人数が多く、一人一人の練習時間は短いけれど、みんなバドミントンが大好きなので一生懸命練習しています。先輩たちのほとんどが初心者です。優しい先輩がしっかりと教えてくれます。練習をすればするほど成果が出て楽しいスポーツです。

ぜひ、いっしょにバドミントンを楽しみましょう！

剣道部

◇平成 30 年度 春季大会 : 男子団体 ベスト 8

女子団体 1 回戦敗退

◇平成 30 年度 県総体 : 男子団体 3 回戦進出【16】

女子団体 1 回戦敗退

◇平成 30 年度 1 年生大会 : 男子個人 1-2 吹戸 亮太 ★(第 3 位)★

◇平成 30 年度 秋季大会 : 男子団体 3 回戦進出【16】

◇平成 30 年度 新人大会 : 男子団体 2 回戦進出【16】

～主な行事～

夏：尾鷲高校主催合宿

冬：中京大学主催練成会・関西学院大学主催高校剣道大会

* その他、紹介された練成会には、できうる限り参加。

「県ベスト 4 に向けて」

現在、私たちは、2 年生 4 人、1 年生 6 人の計 10 人で活動しています。昨年に比べ、チームの力は着実に上がってきてはいるものの、ここ最近、なかなかベスト 8 になっていません。個々の繋がりを大事にして勝つ、というスタイルで日々頑張っております。

本県も、私学の壁が厚いですが、“なせばなる！！”の精神でまずは、ベスト 8 を突破し、ベスト 4 になるべく一生懸命稽古に励みます。

吹奏楽部

1年生 19人 2年生 17人 3年生 10人

◇平成 29 年度三重県吹奏楽コンクール A 編成 (8月 12 日) 銀賞

◇三重県アンサンブルコンテスト三重県南地区大会 (1月 13 日)

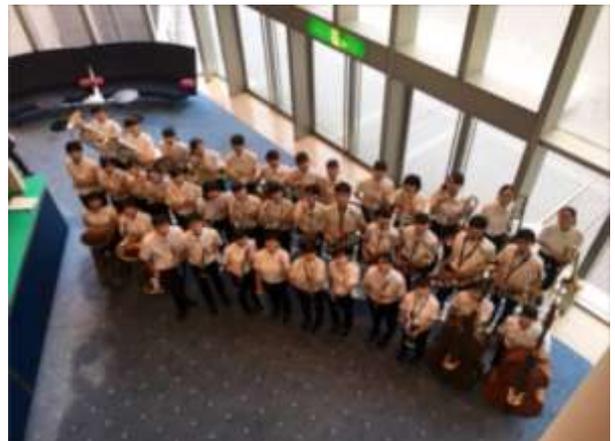
打楽器五重奏 銀賞 クラリネット五重奏 金賞

サクソ四重奏 金賞 地区代表 木管混成六重奏 銀賞

◇三重県アンサンブルコンテスト三重県大会 (1月 19 日)

サクソ四重奏 銀賞

こんにちは！ 私たち吹奏楽部は毎日仲良く一生懸命練習に励んでいます。
沢山の高校と一緒に演奏するフレンドシップコンサートやコンクール、文化祭など
内外で行われる様々な行事にも参加させていただいています。コンクールも学生指揮で
出場するなど、生徒主体で部活動を運営しているため、色々な壁にぶつかることも
ありますが、とても充実した日々を過ごしています。沢山の皆さんの心に響く音楽を目標に
頑張ってきた、そんな私たちの集大成である定期演奏会が3月29日(金)に
三重県総合文化センター大ホールで行われます。ぜひ聴きに来てください♪



弓道部

現在、私たち津高校弓道部は週に五日、月曜日から金曜日の放課後に弓道場にて稽古しており、週に一度、有段者の外部指導の先生に教えていただいています。部員数は男女合わせて40名を超えており、全員が高校から弓道を始めた未経験者で、その多くが『一度、武道を経験してみたい!』、『先輩方のようにカッコよくなりたい!』という単純な理由で弓道部を選びました。

しかし、弓道は見た目とは裏腹に実際に弓を引いてみると、自分の想像通りには引けず、矢を真直ぐ飛ばすことさえも難しいです。さらに、大会や審査では大会役員、審査員、観客席の応援の方々に見られ、緊張し、精神力、集中力を欠くことも少なくありません。ですが、私は弓道のこのような一面こそが弓道修練の目標だと思っています。普段の稽古から、静かな、大会さながらの雰囲気を作り、集中して弓を引くことで、大会などでも臆することのない強靱なメンタルを作れると思っています。

まだ、私たちは県以上の大きな大会で結果を残せてはいませんが、私たちを支えてくださっている顧問の先生方、全ての方々への感謝を忘れずに、少しでも高みへ行けるように努力して練習していきたいと思います。

(部長：長谷川瑞記)



硬式野球部

春季高校野球中勢地区予選

3/25 津 4 - 7 (10回) 津西

3/31 津 7 - 6 久居農林

4/1 津 5 - 4 (13回) 津工業

春季高校野球三重県大会

4/14 津 1 - 6 菰野

全国高校野球選手権三重大会

7/14 津 6 - 5 (12回) 明野

7/17 津 9 - 3 飯南

7/21 津 0 - 1 1 いなべ総合学園

秋季高校野球中勢地区予選

8/18 津 1 - 9 津商

8/22 津 10 - 6 高田

8/25 津 3 - 4 (11回) 津工業

8/26 津 4 - 5 高田

男子硬式テニス部

僕はキャプテンに任命されたとき、みんなを引っ張っていけるか不安でした。たくさんの人の前に立つて話すのは得意ではないし、部活にも毎日真面目に行っていたわけではなかったからです。

そして、いざキャプテンになってみると、想像以上に大変なことが多くて毎日とても忙しかったです。しかし、どんなに大変な仕事も部活のチームメイトと一緒にやれば苦しくありませんでした。

普段の練習から仲間で考え合い、高め合っていくことができ、僕にとってとても充実した日々を過ごすことができました。そして、それが大会での結果につながると、とてもうれしかったです。

部活は、たくさんのことを経験できる場所だと思います。そして、得るものもたくさんある場所です。

(キャプテン：村木太一)



女子硬式テニス部

・部員

2年生 5人

1年生 6人

・活動場所

東コート(コートが3面ある方)

・活動日時

平日…放課後、日が暮れるまで

休日…土日のどちらかの日の半日練習

(大会や練習試合などでどちらも練習がある場合もありますが、基本は半日なので勉強と両立できます!)

夏休みに2泊3日の合宿があります

・平成30年度の実績

平成30年度 三重県高等学校テニス選手権大会(平成30年8月18日～22日実施)

女子団体 第4位

1・2年女子シングルス 目次結香(1年 緑ヶ丘中出身) ベスト16

湯浅凧都(1年 付属中出身) ベスト32

平成30年度 三重県高等学校新人大会テニス競技の部

(平成30年9月15日～17日、10月27日～29日実施)

女子団体 第8位

女子シングルス 目次結香 ベスト32 湯浅凧都 ベスト32

女子ダブルス 湯浅凧都・目次結香 ベスト16



- ・県大会ベスト4目指して頑張っています。初心者、経験者関係なく楽しく練習しています。一緒にテニスしませんか？

ソフトテニス部

男子 16 名、女子 13 名で活動しているクラブです。

練習は、平日は放課後、土日は基本どちらか半日です。

自主自律の精神のもとで部員自らメニューを考え、上位進出を狙って熱心に活動しています。

現在は、男女ともに 団体県ベスト 8、個人ベスト 16 を目指して、日々頑張っています。

男女同じ会場で大会が行われることが多く、互いに応援し合いながら頑張っています。

【大会結果（男子）】

- ・第 65 回東海高等学校総合体育大会ソフトテニス競技県予選大会
男子団体の部 第 5 位（平成 30 年 4 月 29 日）
- ・平成 30 年度三重県高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会
ソフトテニス競技県予選大会 男子団体の部 第 5 位（平成 30 年 5 月 27 日）



サッカー部

◇平成30年度インターハイ予選

- 1回戦 4/22 津4－3 四日市
2回戦 4/30 津1－2 伊勢

◇平成30年度三重県サッカーリーグ2部A

- 第1節 4/7 津1－1 鈴鹿
第2節 4/14 津1－0 宇治山田商 2nd
第3節 6/2 津3－2 久居農林
第4節 6/9 津1－1 津工業 2nd
第5節 6/23 津0－1 上野
第6節 7/7 津0－4 伊勢工業
第7節 7/14 津2－1 海星 2nd
第8節 8/25 津2－3 白子
第9節 9/1 津3－1 松阪工業

◇平成30年度選手権予選

- 1回戦 10/8 津7－0 青山
2回戦 10/13 津1－2 川越

〈活動内容〉

平日： 16:00～18:00

休日：練習試合 or 公式試合

オフ：土曜日が試合の場合は日曜日がオフになることがあります。土日とも試合がある場合などは月曜日がオフになります。

〈サッカー部について〉

例年1学年15～20名所属。全体をABの2チームに分けて、それぞれのチームに対し日本サッカー協会指導者ライセンス保有者(2名)によるトレーニングが行われています。学業とサッカーの両立を目指し日々充実した活動を送っております。サッカー部は例年難関国公立大学・国立医学部をはじめ、高い進学実績を出しております。



ソフトボール部

- ・部員数 … 5人（2年4人、1年1人）
- ・活動頻度 … 平日：練習（～18：00）
土曜日：午前練習、合同練習、練習試合
日曜日：基本的には休み

こんにちは！私たちソフトボール部は、「ソフトボールを楽しむ」をモットーに学年関係なく元気に仲良く活動しています。

私たちの目標はベスト8に入賞することです。そのために、効率よく限られた時間の中で集中して練習に取り組むことを心がけ、日々活動しています。

練習時間は長くはなく、週に1日以上のお休みがあり、テスト前には休みがあるので勉強や習い事との両立がしやすい環境です。



ソフトボールは9人以上で行うスポーツなので、今は人数が足りず合同チームで大会に出場しています。ソフトボールは難しいというイメージがあるかもしれませんが、部員には高校から始めた人もいるので初心者の方も大歓迎です。

経験者の人はもちろん、少しでもソフトボールに興味がある人や、体を動かすのが好きな人は一度見

にきてください！

高校生活は勉強や学校行事など盛り沢山ですが、部活で体を動かすことはストレスの発散や良い気分転換になります。

ぜひ一緒に楽しくプレーしましょう！



ダンス部

津高校ダンス部「つこだん」です！！私たちは様々なイベントに向けて楽しく元気に活動しています！みんなで頑張る時間は私たちにとって宝物であり、青春そのものです。舞台上に立った時の高揚感と緊張感は、言葉では表現できない感覚です。

初心者でも経験者でも男子でも女子でも大歓迎です！

私たちも全員初心でした！私たちと一緒に最高の思い出を作りませんか？一緒に青春しましょう！！

これまでの主な受賞は以下の通りです。

◇三重県高体連ダンスフェスティバル

- H. 20 最優秀賞
- H. 23 発想が良かったで賞
- H. 24 かわいかったで賞
- H. 26 想定外な作品展開で魅せたで賞

◇2018 年度参加したイベント

- 8 月 とこわか国体オープニングダンス披露
(三重とこわか国体津市実行委員会総会)
- 9 月 津高校文化祭
- 10 月 とこわか国体オープニングダンス披露
(三重県障がい者スポーツフェスティバル 2018)
- 12 月 高体連ダンスフェスティバル
- 1 月 とこわか国体オープニングダンス披露



(津市ダンススポーツ連盟設立記念ダンスパーティ)



12 月 高体連ダンスフェスティバル

ハンドボール部

◇部員数（平成30年度）

<男子>

3年生・・・5人

2年生・・・10人

1年生・・・9人

<女子>

2年生・・・4人

1年生・・・4人

◇活動状況

- ・平日・・・本校グラウンドにて練習
- ・休日・・・本校グラウンド又は体育館にて練習、他校と練習試合、公式戦等（基本的に土日のどちらかはオフ）

・公式戦 5月：県総体（インターハイ予選）

11月：新人大会

12月：選抜大会県予選会

- ・その他の大会 夏期：津市民大会
県総合選手権（日沖杯）
三幸スポーツマックス杯（中勢地区リーグ戦）
冬季：交流大会

経験者が少なく、初心者でも十分活躍できる部活です。今年度は女子部が発足したこともあり、生活面だけでなくプレーの面でも、生徒が主体となって活動しています。練習時間は短期集中型で、週に1回のオフを基本としており、学習との両立も可能です。

◇過去の成績（男子）

平成18年度

県総体ベスト4（過去最高）

平成23年度

県総体ベスト8

第6回ヤマカップリーグ優勝

平成25年度

県新人大会5位

平成30年度

県総体 1回戦 津 15-16 名張青峰

選抜大会県予選会 ベスト8

津市民大会 4位

◇過去の成績（女子）

平成30年度

県新人大会 リーグ戦1勝（初の公式戦で初勝利）

津市民大会 4位



バレーボール部 男子

◆平成 29 年度三重県高等学校バレーボール新人大会（平成 30 年 2 月 10, 11 日）

| | | | | | |
|-------|---|---|-----------------------------------|---|-----|
| 1 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 6 2 5 - 1 1) | 0 | 白山 |
| 2 回戦 | 津 | 2 | (1 3 - 2 5 2 5 - 1 7 2 5 - 2 2) | 1 | 高田 |
| 3 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 1 1 2 5 - 7) | 0 | 四日市 |
| 準々決勝 | 津 | 0 | (1 2 - 2 5 1 0 - 2 5) | 2 | 皇學館 |
| 順位決定戦 | 津 | 2 | (2 5 - 1 7 2 5 - 1 4) | 0 | 相可 |
| 〃 | 津 | 0 | (1 9 - 2 5 1 7 - 2 5) | 2 | 津西 |

最終順位：6 位

◆平成 30 年度三重県高等学校バレーボール春季大会（平成 30 年 4 月 28, 29 日）

| | | | | | |
|------|---|---|-----------------------------------|---|------|
| 2 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 1 8 2 4 - 2 6 2 5 - 1 9) | 1 | 伊勢 |
| 3 回戦 | 津 | 0 | (1 4 - 2 5 1 2 - 2 5) | 2 | 四日市工 |

◆平成 30 年度三重県高等学校総合体育大会バレーボール競技（平成 30 年 5 月 25, 26, 27 日）

| | | | | | |
|------|---|---|-----------------------------------|---|------|
| 2 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 1 4 2 5 - 1 2) | 0 | 白山 |
| 3 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 7 2 5 - 1 5) | 0 | 宇治山田 |
| 4 回戦 | 津 | 1 | (1 8 - 2 5 2 5 - 2 3 1 8 - 2 5) | 2 | 津工 |

◆平成 30 年度三重県高等学校バレーボール選手権大会（平成 30 年 11 月 10, 11 日）

| | | | | | |
|------|---|---|-------------------------|---|-----|
| 1 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 1 1 2 5 - 1 1) | 0 | 名張 |
| 2 回戦 | 津 | 0 | (8 - 2 5 1 3 - 2 5) | 2 | 皇學館 |

◆平成 30 年度三重県高等学校バレーボール新人大会（平成 31 年 2 月 9, 10 日）

| | | | | | |
|-------|---|---|-------------------------|---|------|
| 2 回戦 | 津 | 2 | (2 7 - 2 5 2 5 - 1 8) | 0 | 松阪 |
| 3 回戦 | 津 | 2 | (2 5 - 1 5 2 5 - 1 9) | 0 | 四日市西 |
| 準々決勝 | 津 | 0 | (9 - 2 5 1 2 - 2 5) | 2 | 松阪工 |
| 順位決定戦 | 津 | 0 | (2 2 - 2 5 1 4 - 2 5) | 2 | 桑名工 |
| 〃 | 津 | 2 | (2 5 - 1 5 2 5 - 2 0) | 0 | 神戸 |

最終順位：7 位

バレーボールを通じて、技術面、精神面はもちろん人間としても向上するために、チーム一丸となって日々練習に励んでいます。練習や合宿などでは、辛く大変に思うこともありますが、チームみんなで乗り越えてきました。『「練習時間+勉強時間」で三重県トップ』『10年連続県ベスト8』『5年振りの県ベスト4』をチームの目標として頑張って活動しています。



女子バレー部

私たちは「県総体ベスト 16」を目標に、自分たちに必要なことを考え、全員で声を出し、粘り強く練習することをモットーとし活動しています。

H30 年度全国高校総体決勝ライズマン終了後の 1 枚



津市サオリーナで開かれた高校総体に審判(ライズマン)として参加しました。初めての全国大会で緊張しましたが、全国とトップ選手を間近でみることができ、貴重な経験となりました。中でも決勝戦での審判(ライズマン)はとても印象に残っています。2年奥山(橋北中出身)

中出身)

夏合宿(熊野)宿泊所にて 1 枚



津高校は夏休みに熊野に合宿に行きます。合同合宿のため、他のチームの部員とたくさんコミュニケーションをとることができます。また、合宿中に熊野大花火

大会を見学することができます。練習を頑張った後に皆で見る花火はとても綺麗です。2年 伊藤(白子中出身)

選手権(春高予選)大会

11/10, 11, 17日に行われた春の高校バレー三重県予選に参加しました。1回戦で高田高校と対戦し、敗れました。新チームになって初めての大会で、できないことが多く悔しい思いをしました。今大会での反省をいかし、次の大会に繋げていきます。2年 森本(名張北中出身)



バスケットボール部 男子

◇平成27年度新人大会：第3位（東海大会出場）

◇平成27年度県総体：第4位

◇平成30年度新人大会中地区大会：第3位

◇平成30年度県新人大会：第6位

～活動日～

平日 月曜日、水～金曜日 練習

火曜日 休養

隔週木曜日 トレーニング

休日 練習 or 練習試合

理

～主な行事～

春：兵庫合宿、大垣合宿

GW：天理合宿

夏：京都合宿、大垣合宿、

冬：クリスマス合宿 in 天

「東海大会出場を目指して」 2年 木田 伍（桔梗が丘中学校）

僕たち津高校男子バスケットボール部は2年生10人、1年生8人、マネージャー1人の計19人で活動しています。新人戦では入賞することが出来ましたが、チーム発足当初からの目標である東海大会出場には届きませんでした。辛いと思うこともありますが、楽しい仲間がたくさんいることで、乗り越えていけるいいチームです。

県総体まで長くはないですが、ひたすら練習し合宿で経験を積み、試合に満足な状態で臨みたいと思います。

女子バスケットボール部

私たちは2年生3人、1年生7人、マネージャー1人の計11人で活動しています。
週5～6日練習・練習試合をして、毎週火曜日が休みです。
基本的に男子バスケットボール部と練習しているので、とても充実した練習ができます。
部員は学年を超えて仲が良くて、チーム全体で「県大会入賞」という目標に向かって日々努力しています。
初心者・経験者問わず大歓迎です！マネージャーも募集しています！
興味のある方はぜひ体育館まで！！



軟式野球部

◇三重県高等学校総合体育大会軟式野球競技兼春期大会（4～5月）
2回戦 伊勢 9-1 津（8回コールド）

◇第62回全国高等学校軟式野球選手権大会兼夏季大会（7月）
1回戦 宇治山田 7-0 津（7回コールド）

◇平成29年度三重県高等学校軟式野球秋季大会（9月）
2回戦 津 5-0 鈴鹿
準決勝 伊勢 5-0 津
3位決定戦 津 6-4 三重 ※3位確定

私たち軟式野球部は、『東海大会での勝利』を目標として、部員13名、マネージャー1名の計14名で日々の練習に励んでいます。限られた時間とスペースの中で、集中して、効率よく、そして積極的に練習に取り組むことを部員全員が強く意識し、元気に明るく楽しく野球をしています。

ラグビー部

「アシックスカップ2018 第5回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会三重県大会」…第3位

「平成30年度第68三重県高校総体」…第6位

「平成30年度第98回全国高校ラグビー三重県大会」…1回戦敗退

「平成30年度第71回三重県ラグビー新人大会 10人制の部」

…津・松阪・桜丘合同チームで出場し、第1位で東海交流大会へ出場

【 Where there is a will , there is a way. 】（意志あるところに、道は開ける）

津高ラグビー部の合言葉です。私たちはいつもチャレンジしています。そしてそれは、部活のみではなく、勉強においても、です。また、私たちは、全員が高校に入ってから始めた、いわゆる“初心者”です。それでも、短時間で、効率を求めた、集中力の要求される練習で、平成24年度・26年度には、東海大会にも出場しました。

しかし、私たちの一番の自慢は、90歳近くの大先輩をはじめとするOB会いわば「津高ラグビー部ファミリー」です。そして、そんな部活だからこそ『生涯の友人』を手に入れられることです。



校内芝生練習場

茶道部

津高校には表千家と裏千家の二つの茶道部があります。活動はどちらも週に一回で、表千家は水曜日、裏千家は火曜日にお稽古しています。文化祭は自分で浴衣を着て、普段のお稽古の成果を披露しています。和やかな雰囲気の中で季節のお菓子を楽しめる、魅力たっぷりの部です。興味のある方は一度和室をのぞいてみて下さい。

「全国高校生伝統文化フェスティバル・茶道フェスティバルに参加して」

2年 舘 二葉（鈴峰中学校）

私たち表千家茶道部は全国高校生伝統文化フェスティバル・茶道フェスティバル（平成30年12月15日、16日）に三重県代表として参加しました。今回は茶道具の塗りものについての講演を聞き、茶会を通して他県の方々と交流しました。講演では、茶道具の塗りもののお話を聞くことができました。塗りものを日常的に稽古で使っているのも、とても興味深かったです。普段の生活の中であまり聞くことのできないお話を聞くことができ、改めて茶道の魅力の深さを知りました。茶会では、着物を着て他県の方々と一緒に伝統文化フェスティバルに来て下さった方々をもてなしました。とても大規模な茶会で、人が入れ替わり立ち替わりする中で点前をしました。

点前では、順序を間違えないことだけを考えてしまいましたが、他校のみなさんの、一つ一つの動作に気を遣う姿勢を見て、自分の未熟さを知ることができました。また、茶会の間に設けられた生徒交流会では、茶会で気づいたことや日頃の部活動の紹介などを話しました。私たちの学校とは違う取り組みや違う道具など、知らないことをたくさん聞くことができました。



今回は、普段はなかなか着ることのできない着物を着、大規模な茶会で他県の方々と交流するなど、とても貴重な経験をすることができました。この経験を部員全員に伝えて、よりよい活動ができるよう、精進していきたいです。

軽音楽部

軽音楽部は、部員数が50名前後の大所帯のため、部員が一堂に会することはほとんどなく、基本的に各バンド単位で活動しています。校内での練習は2週間に1度、それ以外の日には個人練習をしています。最大のイベントは文化祭での発表です。非公開日には総合文化センター大ホールのステージで3年生を中心とした発表、一般公開日には武道場でライブを行っています。

この他に年数回、夏と春を中心に、アスト津のホール等でライブを行い、演奏を披露しています。



将棋部

○平成30年4月30日（祝・月） 於：高田高等学校
第42回全国高等学校総合文化祭将棋部門 兼 第54回全国高等学校将棋選手権大会
三重県予選

・男子個人 第5位 3年9組 椿井 友也
第9位 3年9組 濱口 哲朗

○平成30年7月28日（土） 於：高田高等学校
第38回近畿高等学校総合文化祭将棋部門三重県予選 兼 第26回三重県高等学校将棋大会

・男子個人 1年4組 前川 智哉 予選敗退
6組 大谷 健人 予選敗退
6組 林 直駿 予選敗退
6組 水谷 拓睦 予選敗退
9組 荒川 啓一 予選敗退

Jr. com部

| 平成30年度 活動人数 | 1年 | 2年 | 3年 |
|----------------|-----|----|----|
| | 12名 | 6名 | 8名 |
| 合計 26名 | | | |

漫画研究部「Jr. com」は40年以上の歴史があります。当時の漫画雑誌で、手塚治虫の「火の鳥」が掲載された「COM」から名付けられました。「手塚先生には及ばない。『Jr. (ジュニア)』をつけよう」と、1967年に当時1年生の6人が立ち上げたといわれています。



Jr. com部は月に3回ほど、家庭経営室で活動しています。主な活動内容は、月刊のイラスト冊子「Comらんど」を発行することです。部員全員が個々にその月のテーマに添ってイラストを描き、回収、印刷、製本へと作業を進めていきます。各部員は勉強の合間を縫って絵を描いています。

「Comらんど」のテーマは、季節ごとに部員が決めています。1月はお正月、10月はハロウィーン、12月はクリスマスなど、その月のイベントであることが多いです。1冊16～24ページで、50～100部ほどを校内で配ったり、コミュニティの棚に並べたりして、自由に読んでもらったりしています。

文化祭では、特別号を発刊して、当日は「Comくじ」をしています。くじの景品として、ラミネートカードやポスター、ストラップを作成しています。当日は特設会場にて興味のある方の手にわたっていきます。毎年恒例で人気なので、お昼頃にはなくなってしまうそうです。

他の部とも兼部可能です。アニメなどが好きな方も多く、部員一同和気あいあいと活動しています。絵が苦手でも大丈夫です。イラストに興味のある方は、ぜひ活動を見学しにきてください。



月刊誌「Comらんど」



文化祭「くじ引き」



美術部

津高校美術部は平日を中心に自由に作品制作に取り組んでいます。

毎週水曜日は、クロッキー会をしています。

夏には2泊3日の合宿で、海や山を感じながら風景画制作等の作品展を見据えた活動を行います。

また11月には津新町商店街で行われる新町フェスタに呼んでいただき、イラストバスというコーナーでバス後方にイラストを描きます。

主な活動目標としては10月と3月の県内高校美術部の展覧会、そして1月の読書感想画コンクールがあります。後者では毎年賞をとるなど良い成績をあげています。



新町フェスタ イラストバス
文化祭



ジャグリング部

ジャグリング部は週3回程度（イベント前は毎日になることもあります）楽しく活動しています。

皆さんはジャグリングとはどのようなものか知っていますか？ジャグリングとはボールやディアボロ、ポイなどの様々な道具を操るパフォーマンスのことで、大道芸やサーカスでおなじみです。クラブ活動としては本校が三重県唯一で、そのため部員全員が高校からジャグリングを始めた初心者です。ですから、経験がなくても全く心配いりません。

対抗試合等がない代わりに、地域の祭りや福祉施設などから出演依頼を受けてボランティアで演技を披露するほか、学校や市の文化祭でも舞台に立ち、多くの人たちに喜ばれています。どうぞ、気軽に始めてみてください！

H30 年度活動実績 7月 社会福祉法人 嬉野カトリックの家（松阪市）

8月 新町小学校夏祭り（津新町）

9月 文化祭

1月 津市青少年文化芸術祭（サンヒルズ安濃）



2018 年度 文化祭（非公開）にて



しんまち夏まつりにて（ボール & ディアボロ）

邦楽部

初めまして、邦楽部です。邦楽部では2年生5人、1年生4人が週3回、和気藹々とお箏の練習に取り組んでいます。普段は部員主体で練習していますが、週に一度、本校のOGでもある外部講師の青山先生に指導していただいています。主な演奏の場は、9月の文化祭、3月の市民文化祭です。またボランティアの一環として秋には近辺の介護施設での演奏会も行っており、本年も職員の方をはじめ皆さんに大変喜んでいただき大盛況でした。演奏を通して、日本古来の和楽器ならではの、美しく心癒される箏の音色の魅力をお伝えすることが私たちの目標です。みなさんも箏の音色を楽しんでみませんか？

文芸部

毎週火～木曜日に生徒指導室前で部誌を作成、発行しています。主な部誌は小曲集5月号・青桐（文化祭のとき）・卒業生感謝号・新入生歓迎号の4つです。部誌の発行以外に、詩を作って互いに評価し合うこともあります。文芸の大会（高校文芸みえ）にも出場しています。

ホームライフ部

| 平成30年度 活動人数 | 1年 | 2年 | 3年 |
|----------------|--------|----|-----|
| | 14名 | 7名 | 13名 |
| | 合計 34名 | | |



ホームライフ部はお菓子作りをメインとした部で、月に2回、調理室で活動しています。作る内容は主に2年生部員が決め、季節のお菓子を中心に、チャレンジしたいものを自由に選んで取り組みます。



文化祭では毎年、「お菓子の家」と称して「蒸しケーキ」を販売しています。夏休み前から部員全員が一丸となって試作品で練習し、役割分担などを決めながら準備に取りかかります。当日は早朝からの集合で、ホームライフ部のロゴが入ったおそろいのエプロンを身につけ、材料を確認し、調理器具を整えて始めていきます。

販売する「蒸しケーキ」の数は、部員の人数の都合により年度で変わります。数量限定のため、30分くらいで完売することもあります。関心のある方は早めにおいでください。日々の部活時間中は先輩と後輩が自由に語れる時間でもあり、和やかな雰囲気が漂います。手作りを楽しみたい方、お菓子が好きな方はぜひ一度、放課後の調理室をのぞきに来てください。



文化祭当日の活動風景



クイズ研究同好会

クイズ研究同好会は、夏の高校生クイズを目標に日々活動しています。昨年、一昨年と2年連続で三重県代表として本選出場を果たしました。今年度は中部地区大会にて予選を勝ち抜き、本選出場校決定戦までは進出しましたが、残念ながら全国大会への出場はなりませんでした。今後の目標は、本選への継続的な出場と上位入賞です。

文化祭では早押しクイズ大会を開催し、また他校との交流クイズ大会を開催するなど、活発に活動しています。日頃は、みんなでわいわいとクイズを出し合い、クイズの腕を磨いています。部員は先輩後輩問わず仲が良く、気軽に勉強や進路の相談をすることもできます。また、クイズの中には学校で習う内容が含まれているものがあり、少しは勉強の役にも立ちます。クイ研は他の部との兼部も大丈夫です。クイズに興味がある人、高校に入って新しいことをしたい人は、ぜひクイ研へ！

国際交流同好会

Hello! We belong to the International Communication Club. Our activities are playing games such as "show and tell", "guessing the meaning of words", "Apples to Apples", "Jenga" and so on. Also, we sometimes watch movies in English and have parties on holidays such as Halloween and Christmas. We have two ALTs, Aliena and Jessica. We enjoy talking with them and each other in English. If you join us, you can experience American culture more deeply. We are really looking forward to seeing you and doing our club activities together!



演劇同好会

◇三重県高等学校演劇大会 中南勢地区大会(7月29日)

○「シンデレラを探せ」上演

◇津高校文化祭(9月7日)

○「ルームシェア」上演

◇津高校図書館主催朗読劇(10月24日)

○「キケン(著 有川浩)」上演

◇三重県高等学校演劇大会 中南勢地区春季大会(3月28日)

○「ギター×オムレツ=」上演予定

<部活紹介>

津高校演劇同好会は、基本週に3日で活動しています。部活の雰囲気はとても良く、和気藹々と楽しく演劇を作っています。演劇を通して学ぶことは沢山あります。なにより、仲間と協力して舞台を作り上げることの充実感や、舞台をやりきった後の達成感を味わうことは、演劇に携わる人間として一番の楽しみでもあります。観客を楽しませたり感動させたりすることも演劇の醍醐味ですが、まず自分たちが「演劇」を楽しむことがやりに繋がっていきます。

演劇を心底から楽しめる仲間と共に、その瞬間しか作り出せない舞台を作りたい。津高校演劇同好会は、そのような意欲を持ち活動しています。



「インターハイを支える立場に」

3年 松林 由起（西橋内中）

平成30年度全国高等学校総合体育大会、通称インターハイが三重県を中心とした東海地方で開催されました。開催期間中、町中に溢れたインターハイの横断幕やポスター、のぼりを見かけた方も多いと思います。私は今回のインターハイに「選手」としては参加していません。インターハイの高校生活動推進委員として活動していたからです。高校生活動とは、競技に出場「する」高校生のみならず、「支える」の観点から高校生が積極的に大会の成功に向けて取り組む姿を全国にアピールする舞台となるよう、地元高校生が企画・準備・運営をする取り組みです。具体的には、総合開会式での選手団激励、イベントの運営、選手や監督の方にお渡しする手作り記念品の製作等様々です。簡単に言えば、私はインターハイを盛り上げるべくPR活動をしてきました。私は、この経験を通してたくさんの人に出会いました。津市長である前葉泰幸様、三重県知事の鈴木英敬様、御交流会では皇太子殿下とお話させていただく機会があり、思い出に残るいい経験となりました。また、私の活動を応援し、支えてくれた先生方にとっても感謝しています。私も生徒のやりたいことを全力で応援できる教師を目指し、津高校で学んだこと、インターハイで得た経験をこれからは活かしていきたいと思います。



推進委員会の仲間とともに

「日常を短歌に」

永合桃子（橋北中学校）

『なつかしい 屋上へ向け 足音が 方言とともに 駆け上がっていく』

私はこの短歌で佐佐木信綱顕彰歌会において、鈴鹿市教育長賞をいただきました。この短歌は高校生を対象としたものだったので、高校に何か関係があることを書きたいなど初めに思いました。しかしスポーツもしていなければ短歌になるような趣味もないので、私は何を歌にしようかととても悩みました。そこで私は高校での日常を歌にしたいと思い、大人になって、高校生活を思い出したらどう思うだろうか、ということを考えながらこの歌を書きました。

表彰式の後に歌を批評していただく時間があり、そこでこの短歌の中の「屋上」はどこかの屋上かが示されていないので示したほうが良いとのお言葉をいただきました。今回短歌を作り、五・七・五・七・七という制限の中で自分の気持ちを詠むという面白さに気付いたので、また短歌を詠む機会があれば、そのような状況描写などにも気を配りたいと思います。

ビブリオバトルに参加して

1年 玉野 茜絵 (東観中)

「ビブリオバトルに出てみたい。」
そう思ったのは中学三年生の時でした。

受験勉強に明け暮れ、その思いは記憶の棚の奥のほうにしまい込まれていましたが、今回高校でビブリオバトルの参加者（バトラー）の募集があると知り、これはもう千載一遇のチャンスだな、と即日図書館へ向かったのが私のビブリオバトルの始まりでした。

今回、私が大会で紹介したのは酒井順子さん著、「枕草子R e m i x」という本です。小学生の時にこの本を知ったものの、実際に出会えた機会がないまま諦めかけていたころ、ようやく高校で運命の出会いを果たせた、私にとって大切な一冊です。

そんな本を紹介するにあたって一番苦労したことは、この本の魅力をいかにたくさん、分かりやすく、そして具体的に伝えるかということでした。（しかも制限時間が5分と決まっている！）最初に話したときは「たくさん」の部分を考えすぎてしまい、とても早口になってしまったりして、あまりうまく喋れませんでした。しかし練習を重ね、自分で内容を吟味していくうちに徐々に言葉が自分の思い通りに飛んで行ってくれている感じができて、「ああ、やっぱり話すのは楽しいなあ！！」と思うことができました。

大会当日。私が真っ先に感じたことは一言でいうと「熱い」。
それもそのはず、みんな自分の好きな本を持ってきているのですから。ほかの人が紹介してくださった本は、純文学、映画のノベライズ、伝記、詩集…など様々なジャンルできっと自分だけでは出会えなかったであろう本ともたくさん出会うことができました。また、ビブリオバトルで出会えたのは本だけではなく、「本を通して人を知る、人を通して本を知る」、その言葉の通り、たくさんの人と出会うことができました。バトル開始前から終了後まで人から話しかけていただいたり、時にはこちらから話しかけてみたり。県内各地から集まったほかのバトラーさんたちと話し、本のことはもちろん学校のことや勉強のことまで、様々な話題で盛り上がることができ、とても楽しく、刺激に満ち溢れた時間となりました。

さらに、自分の発表後にあるディスカッションの時間（発表後に設けられた2分半の時間のことで、聴衆の皆さんからいろいろ質問していただく時間です）にいただいた質問にその場で回答していくのもとても楽しかったです。質問の回答は発表とは違い事前に考えておけるものではありませんから、その瞬間に思い付いた言葉でお答えしていきます。だからこそ、発表では言えなかったような細かい部分にスポットを当てられたり、自分の感じたことをお話しさせていただいたり、質問を通して自分の本を見つめなおし、より深く知る、ということができました。

まとめると、今回私がビブリオバトルに参加して得たものは

- ① 人に自分の思っていることを決められた時間ではっきりと伝える能力
- ② より自分のスピーチを魅力的にするための工夫の仕方
- ③ 自分が今まで知らなかった本、人との出会い

でした。きっとこれらはこれからの私にとってかけがえのないものとなると思います。

最後になりますが、このような貴重な体験の場を与えてくださった方々に深く感謝します。もし、再びビブリオバトルに参加させていただいたら、今度は聴衆として参加してみたいと思います。

☆今回私が紹介した「枕草子R e m i x」は、とにかく面白い、勉強になる、そして清少納言さんをより身近に感じられる、とても素敵な本です。古典大好きな方はもちろん、ちょっと古典は苦手…という方も、是非是非読んでみてください！！清少納言ワールドの虜になること間違いなしです！！

「 自然に感情を表現すること ～英語スピーチコンテストに出場して～」

2年 平野 百香（白子中学校）

私は、10月20日に行われた第28回三重県高等学校英語スピーチ・スキット・英作文コンテストのスピーチの部に出場し、準優勝を果たすことができました。

そして、11月11日に岐阜県で開催された第12回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会に出場しました。

このコンテストのスピーチの部では、各自が自由な題材で、4分30秒以上5分30秒未満でスピーチを披露します。私は5分20秒ほどでスピーチをしました。

私のスピーチは、他言語の学びから得られたことや、学ぶことの大切さを伝える内容でした。高校1年生の夏休みにオーストラリアに行き、ホームステイをしながら現地の高校で過ごした経験をもとに、自国と他国の文化の違いから感じたことや、理解し合うことの重要性について話しました。

原稿が出来上がってからは、まず毎日家で読んで、スピーチを覚えることを徹底しました。同時に、ネイティブの発音に近づくために、ALTの先生に読んでもらった録音を聞きながら、細かく真似をしました。特に、イントネーションや単語のつながりに注意しました。また、放課後はALTの先生から直接、発音の微妙な部分や声のトーンをご指導いただきました。初めは、言葉の何処を強調するかや、どのようなジェスチャーをするかなどを決めてから読んでいたため、わざとらしくなっていました。しかし、ALTの先生に、自分が伝えたいところを思うままに表現するといいいよと言われ、自分が発している言葉の意味や全体を通しての流れを意識しながらやってみると、とても自然に話せて、より気持ちが表せるようになりました。そして全体を通して多様な動きができるように心がけました。長期間、何回も練習したおかげで、本番で緊張しても、発音、声のトーンの変化、間、ジェスチャー、表情など、練習どおりの安定したスピーチをすることができました。

私は中学生の時も何度かスピーチコンテストに出場してきましたが、今回のスピーチは今までと比べ最も自然に、リラックスして話すことができ、自分の成長に気づくことができました。自然に表現ができたことで心地よく話せて、ありのままの自分の考えを聴衆に伝えることができたように思います。

今回、スピーチコンテストに参加するにあたって、たくさんの先生方から、熱心なご指導、様々なアドバイスなどをいただきました。そのおかげで、多角的・客観的に自分のスピーチを見つめることができ、技術的にも精神的にも成長を感じました。本当に感謝しています。この経験をこれからの生活にも活かしていきたいと思っています。



第 19 回大阪国際音楽コンクールに参加して

3年 豊田 日乃(創徳中)

私は 10 月 8 日に大阪で行われた「第 19 回大阪国際音楽コンクール」の声楽部門 Age-H(高校生の部)の全国大会に出場しました。声楽のコンクールに出場するのはこれが初めてだったので、まさか第二位という結果になるとは思ってもおらず、結果発表のときは正直何かの間違いではないかと驚きを隠せませんでした。しかし、これまでの練習がこうして形となった事は、非常に嬉しいことですし、同時に今後ますます精進していかねばと思えました。

私は小さい頃から音楽が大好きで、祖父に連れられてクラシックオーケストラのコンサートやオペラ、ミュージカルを沢山観に行きました。音楽に触れる機会が多い中で、特に興味を持ったのは歌でした。幼少期からピアノを習ってはいましたが、とにかく歌うことが大好きで、周囲の人も歌が上手だねと褒めてくれたので、歌うことがますます楽しく気持ちの良いものになっていきました。そして小学校で音楽の授業で合唱をする中で、合唱への興味が湧いてきて、中学校では合唱部に所属しました。しかし、合唱部に入って間もなく、私は自分が思っているほど歌がうまい訳じゃないという現実を突きつけられました。というのも、今まで好きなように好きな歌を歌ってきた私には、歌の基礎基本というものが一切なかったもので、何もかもがゼロからのスタートでした。先ほども述べたように昔から音楽に触れる機会が沢山あったし、周りから歌が上手と言われていたので、自分は歌が歌えると過信していた部分がありました。しかし現実はそう甘くなく、謙虚な姿勢で練習に臨むことの大切さに気づかされました。部活を通じて苦しいことも沢山ありましたが、同時に仲間と歌うことに対する喜びも沢山味わいました。私は中学の三年間で合唱がどんどん好きになり、高校でも合唱を続けることにしました。高校で 2 年間合唱を続け、声楽の道へ方向転換したのは 3 年生の春でした。とある声楽の先生に一回レッスンをさせていただいた時に、声楽をやってみないかと言われました。私はずっと合唱をしている中で、もっと自分自身の歌の技術を磨きたいと思うことが何回かありました。あわよくば、いつかソロで歌えるようになりたいと思う事もありました。いろいろ考えた結果、合唱をお休みし声楽に専念することを決めました。

声楽を初めてすぐ、合唱との違いに苦戦しました。そもそも合唱は複数人で歌うので、それになれていた私は、いざ独りで歌うとなった時、想像以上に緊張しましたし、何より不安になりました。私は月に一回県外でレッスンを受けています。県外ということで毎週レッスンに行ける訳ではなく、限られた時間の中で集中して練習しました。発声法、表現の仕方、全てを一からやり直しました。正直今回のコンクールは初めてということもあって、自分の中では腕ならしといった感覚でした。ですから、さほど緊張もせず、比較的伸び伸びと歌えました。その結果自分の持っているものが最大限発揮できたのかと思います。しかし、ここから先は、より技術が求められる世界になると思うし、もっと歌がうまい人たちが沢山居ると思います。その中で如何に自分らしさを持ちながらたくさんの人に認められる歌が歌えるかが重要になるのではないかと思います。音楽は、聴く人によって感じ方は様々であり、その善し悪しは、これだと一つに定義されるものではありません。しかしコンクールで一番に輝けるのは一人だけです。コンクールで評価されるものだけが良い音楽とは言えませんがコンクールもまた一つの音楽の善し悪しをはかる物差しだと思っています。私は、今後も自分のモチベーションを高く保つ為にも、コンクールを沢山受けていこうと考えています。今回の大阪国際音楽コンクールで得たものを今後の自分の成長の糧にしていきたいと思っています。



「ボウリングを始めて」

山下実沙稀（西郊中学校）

私は小学6年生の冬頃からボウリングを習い始め、今年で4年になります。始めて数年はほとんど大会には出ていませんでしたが、中学2年生の時に三重県ジュニア選手権大会女子の部優勝、全体で2位になることが出来ました。それから毎年全国大会に出場しています。しかし、全国大会では良い結果が残せていないので高校生の間に決勝に残り表彰台に上がることが目標です。

また、中学3年生の時に東海ブロック大会を通過し愛媛国体に出場することが出来ました。国体は各ブロック大会で戦い抜いた選手が集まってきており全国大会とは緊張感が違ったり、とてもレベルの高い大会でした。そのため、自分の技術面、精神面での弱さを痛感し、今までにない悔しさを覚えました。国体でしかこの悔しさは晴らせないので、リベンジする為に来年の茨城国体を目指して、まず東海ブロック大会を通過することを目標に頑張っています。

今年は、三重県春季ジュニア競技会4位、三重県ジュニア選手権大会女子の部2位、東海北信越高等学校選手権大会2人チーム戦3位、で入賞できたので来年もたくさん入賞できるように頑張りたいです。

ボウリングを始めたことで多くの出会いがありました。大会を通して多くの人と関わり他県の友達がたくさんでき、全国だけでなく国際大会でも活躍している友達をみて私も力をもらっています。私もいつか国際大会に出られるような選手になりたいです。ボウリングはまだまだ“遊び”というイメージが強いと思うので、結果を残してもっと知ってもらい“スポーツ”としてのボウリングを多くの人に楽しんでほしいなと思います。2年生は今より勉強との両立は難しくなると思いますが、時間を有効に使っていきたいです。



金融経済クイズ選手権

白野敦也（桔梗が丘中学校）

小山拳志（三雲中学校）

私達は、12月に開催された全国高校生金融経済クイズ選手権三重大会に参加しました。参加する事になったきっかけは私達が経済学、金融関係について興味があったことです。この大会を通じて何か発見したい、自分が関心を寄せているものが努力を積むことで強みになり、役に立つものにしたいという共通の志がありました。大会に向けての勉強は大会の運営団体から提供された教材を使いました。自分だけでは理解が難しかったり、複雑な計算が必要になったりする部分は相談し、教え合いました。更に、学校の先生にも質問することで理解を深めました。大会ではそれぞれの不得意な分野を補い合ったり、二人で協力したりして答えを導き、想像していた以上の結果を出すことができました。この大会に出場することで好きなことを研鑽したい、自分の強みにしたいと、二人ともが同じ気持ちを持っていたことはとても大事だと考えています。これからは、この経験を実生活にも生かしていきたいと思います。

保健委員会

岸田 千夏（大木 中学校）

私たち保健委員会は15年ぶりに優良保健委員会として表彰していただきました。

【主な活動】

- ・手洗い場、AEDの点検
- ・ウォータークーラーの水質検査
- ・レク大や体育祭での救護当番 など

冬場にはインフルエンザ予防のためにクラスの消毒液の設置や換気を行っています。これだけ見ると、大変そうだと思う人がいると思いますが、やってみるとやりがいを感じます。この賞を受賞して、今までやってきた活動が評価されて、すごく嬉しかったです。これからもクラスみんなの健康を守るために1つ1つの活動をきっちりやっていきたいと思えます。



「健康に関する作文」

1 1月に行われた第44回「健康に関する作文」コンテスト（三重県学校保健会主催）において、下記の生徒が受賞しました。

- 優秀賞 2年 清水 麻衣（西橋内中）
- 佳作 2年 矢原 早記（三重大学附属中）
- 佳作 1年 西尾 柚香（天栄中）
- 佳作 1年 樋口 健世（豊里中）

「健康とは」

優秀賞 2年 清水 麻衣（西橋内中）

私はこの作文を書くにあたって、まず最初に健康とは何かと考えた。辞書で引いてみると『体のぐあい。心身の状態に悪いところがなく、正常で元気であること。またそのさま。（旺文社国語辞典第十一版）』と書かれてあった。私はこの「正常で元気であること」に引っかかった。私は健康について自分なりに解釈してみようと思った。

もし辞書通りに正常で元気であることが健康であると解釈するならば、私はその解釈は違うと思う。もちろん元気なことは大切だと思う。生きるうえで大切なエネルギーとなるはずだ。しかし、正常であることが健康であると位置づけてしまうのはどうだろう。例えば障がい者の方々。自分の障がいと向き合い、それを乗り越えて世の中で活躍している障がい者はたくさんいる。障がいを持っているから身体の機能は正常ではないが、不健康であるとは言えないと思う。

ではどのように解釈すればいいのだろうか。私は、私自身を健康だと思っている。病気持ちではないし、毎日元気に過ごせている。では私が元気に過ごせている理由は何だろう。食事、睡眠、運動など日々の生活のリズムや生活習慣が真っ先に思い浮かんだ。しかしこれらの他に楽しいと思う時間があるからということが思い浮かんだ。生活習慣や生活リズムを整えることなしでは健康を保つことは難しい。だがそれは身体の話だ。心の健康というように、自分の中で楽しかったり充実していると思えることこそ健康に繋がるのではないかと思う。

以前テレビ番組で、笑うことががんの治療に役立つことを聞いた。笑うことで免疫力が高められたり、前向きな気持ちになれたりプラス効果であると言われていた。私はこのことも健康と関係があると思う。がん治療だけに関わらず、普段の生活の中で笑うことはものすごく大事だと思う。それだけ自分の中で楽しかったり充実していたり、ポジティブになっているからだ。

長寿だったことで有名なきんさんぎんさんのぎんさんが娘さんに残した家訓の中に「笑う門には福来たる」ということわざがある。私は本当にその通りだと思う。長生きすることは身体はもちろん、心も健康でいられるからこそそのことだと思う。笑顔でいると気分も明るくなれるし健康のための効果は計り知れないだろう。

私は、好きなテレビを見たり好きな音楽を聞いたりして笑顔になれる。他にも色々あるが、それらを全て取り上げられてしまったらきっとおかしくなってしまうだろう。人それぞれ笑顔になれるものや瞬間は違うと思うが、それを馬鹿にしたりするべきではない。それが原因で笑顔がなくなったら、きっと健康にも影響が出てしまうだろう。そうならなかったら元も子もない。そうならないためにも、自分はもちろん他人の笑顔になれるものや瞬間を大切に考えなければならぬと思う。

「気持ちが良い」という言葉はよく聞くし自分も発する。改めて考えるとこの感情はとても大事な感情だと思う。何に対して感じるのかは人それぞれだが、気持ちが良いことは決してマイナスなことではないだろう。プラスに考えたりポジティブにとらえたりすることも、きっと健康のための道なのだと思う。

私は今まで保健や栄養の授業などで健康について習ったことがあったが、それを通して少し堅いイメージを持っていた。自分の体と密接に関わりがあり、生活習慣や生活のリズ

ムはもちろん大事だが、もう少し考えやすいことはないのかと思っていた。だから、身体だけでなく心の健康を考えられたことで、もっと身近なものに感じられた。気持ちを明るく保つことは大事だし、これから意識していきたいと思う。

私は健康を「楽しく笑顔でいられること」と解釈しようと思う。毎日楽しく元気に笑顔で過ごせることで、健康に生きられるのではないかと思う。全部が全部を乗り越えられるわけではないと思うが、それでも少しは心が軽くなることもあると思う。また、自分が笑っていることで周りの人も笑ってくれたら、健康の輪が広がっていくと思う。人からの影響は大きな力になるはずだ。

自分はこの先もずっと健康でいたいし、自分の周りの人や大切な人たちにもずっと健康でいてもらいたい。そのためには、まず自分が楽しく笑顔で過ごしていくことが一番だと思う。それから、周りの人にも笑顔になってもらえることが出来たらいいと思う。

第64回青少年読書感想文全国コンクール

三重県審査 優秀賞

「玉ねぎを信じる」

(対象図書：『深い河』 遠藤周作著 講談社)

2年3組 伊藤香乃（白子中）

私は「無宗教」だ。それを問題だと思ったことはなかった。無宗教であっても十分に幸せな毎日を送ることができるのに、どうして戦争まで起こってしまうほど宗教を信じるのか、不思議だった。この作品で書かれているように「ほとんど多くの日本人と同じ」一人なのかもしれない。しかし、宗教と無縁の生活を送っているわけではない。むしろ、私の生活の中に宗教に結び付いたものは多く存在している。

例えば、自分自身の家に仏壇などはないが父の実家は代々浄土真宗であり、仏壇がおいである。そして、幼い頃から、お盆には家族揃って早朝から墓参りをする習慣がある。以前、曾祖父が亡くなった時はお寺で葬儀を行い、法事の度にお寺でお参りをした。

かと思えばその一方で、その父方の叔母が結婚をした際には、正式なカトリックの教会で挙げた結婚式に参列した。神父によって執り行われた「父と子と聖霊のもとで結ぶ結婚の契約」を目の当たりにし、キリスト教における神の存在の大きさに驚いた。それとともに自分の中に、信仰の対象としての神や仏というものが存在していないことを実感した瞬間だった。

私はこの本を読み、日常にあふれる宗教的なものとの関わり方や、自分の信仰観や宗教観について考え、自分がそういったことにあまりにも無頓着であることを感じた。そしてそれを自覚しているにも関わらず、考えないようにしていたことに気がつき恥ずかしく思った。

『深い河』は、現代の日本を舞台にした作品だ。登場人物は、信仰や宗教と様々な形で向き合うことになる。その一人である磯部はがんで亡くなる直前に妻が残した、生まれ変わるから見つけて欲しいという最後の言葉をきっかけに妻の生まれ変わりを探し始める。そして、信仰や宗教を偽善的だと見下していた美津子は、神父を志す冴えない男、大津との関わりにより、神や宗教というものと向き合うこととなる。彼らは愛を、人生の意味を求めて、それぞれインドへと向かう。

私は、これらの登場人物の中で大津の言動に心を惹かれるようになった。彼は、カトリック教徒で神父を志しながらも、カトリックを離れてインドで宗教活動を行うことになる。神を「玉ねぎ」と呼んでもよいと言い、「神は存在というより、働きです。玉ねぎは愛の働く塊なんです」と語るこうした彼の考え方は、カトリックの中では異端とされ、彼は活動の拠点を教会からガンジス河へと移す。

インドにはカースト制などの歴史的宗教的背景があり、物乞いする子どもたち、指をすべて失ったハンセン氏病の病人たち、喘ぎながら死を待っている行き倒れの人々が多くいる。そのような場所で、大津は彼らの世話を行っている。人間らしさのかけらもなかった人生の中ガンジス河で死ぬことを最後の望みとして町までやってくる倒れた人を、アウト・カーストのような格好で大津はガンジス河まで運ぶ。背に十字架を背負い死の丘をのぼったキリストのように。

ガンジス河が身分の高い人々も、身分の低い人々も、死んだ人々も、生きる人々も、どれだけ醜く、よごれた人であってもすべてを拒まず受け入れるように、大津は彼らを受け入れている。私は、キリストは大津のような人物だったのではないだろうかと考えた。

世界には、キリスト教、仏教、イスラム教、ヒンドゥー教など多くの宗教がある。生活だけでなく人生の中心に宗教があり、神のために生きる人、宗教の対立によって起こった戦争で血を流す人がいる。対立や憎しみは国と国の間やちがった宗教の間に続いてきた。

そのような憎しみの世界において、「玉ねぎ」の愛など無力でみじめなものかもしれない。しかし、その生き方は人の心に転生する。キリストの生き方は、大津の心に転生し、大津はそれを実践したのだと思う。そして、宗教や神に懐疑的だった美津子が大津のそうした生き方に触れる中で「信じられるのは、それぞれの人が、それぞれの辛さを背負って、深い河で祈っているこの光景です。」といい「愛の働き」を肯定的に捉えるように変化していく。

私はこうした愛の働きを信じたいと思う。これまで宗教的なものに対して畏怖の念を抱くことはあったが、特定の宗教を信仰することに対しては違和感があった。大津の生き方や愛の働きとはそれを認めてくれるものだと思う。神を信仰する訳ではないが、宗教も宗派も関係なく、すべての苦しみを背負い、悲しみを受け止める「玉ねぎという愛の働く塊」を信じたい。対立や憎しみを生む宗教や文化の間の溝となってしまう河ではなく、ただすべてを受け入れ、壮大な海へと流れる深い河を信じたい。

三重県審査 優秀賞

「何様」から「何者」へ

(対象図書：『何者』 朝井リョウ著 新潮社)

2年1組 喜田翔太 (南が丘中)

ライン、ツイッター、インスタグラム。「SNS」と呼ばれるこれらのコミュニケーションツールは近年で爆発的に発達し、現代社会を生きる人々の生活と切っても切り離せない存在となった。そのような今日の社会では、自分という存在そのものや自分の価値観はごく限られた短い言葉で語られるようになった。無数に存在する言葉を慎重に取捨選択し紡ぐ。現実にある本来の姿とは異なる虚像を作り出すこともしばしばある。なぜなら、そうすることでしか、自分が何者であるかを実感することができないからだ。こういった現代の若者のリアルなSNS事情と就職活動を通した、人との関係性を複雑に絡ませ描いた作品が朝井リョウ著の『何者』である。

人を分析することが得意な主人公、拓人。何も考えていないように見えて着実に内定に近づく光太郎。何事にもまっすぐな瑞月。「意識高い系」だが、なかなか結果が出ない理香。就活はしないと宣言し、個性派ぶる隆良。二十二歳の大学生五人は、理香の部屋を「就活対策本部」として定期的に集まる。それぞれの思いや悩みをSNSに吐き出しながらも就活に励む。面接やSNSで発する言葉の奥に見え隠れする本音や自意識がそれぞれの思いを複雑に交錯し、人間関係は徐々に変化していく。物語のラストにはこれまで抑えられていた一人一人の妬みや本音が露になり、ようやく彼らは自分を見つめ直す。

この小説を読み終えた時にまず思ったのは「もう二度とこの物語を読みたくない。」ということだった。いい意味でだ。物語の中心となる五人はもちろん、拓人の友人であった、努力の過程を自己プロデュースするギンジ。この登場人物の誰もが、周りにいそうな人物であり、なおかつ私の中にある一面のように思えたからだ。物語を読むにつれて、話し手である拓人に共感し感情移入していく。そうして観察者になりきった物語の終盤で理香から現実を突き付けられるシーンはまるで私自身のことを言われているようで深く心がえぐりとられるような気分になった。

また、拓人に共感するというのは、私にも人を観察し心の中で嘲笑っている節があると自覚しているからだ。何かを為す時に、一生懸命に全力で向かい合うことをダサいと感じ、頑張っている人達のことを痛いと思う。加えて自分は最小限の努力で、涼しい顔をして本当の努力をしている人に勝りたいと思ってもいた。そうすることで失敗も「本気でやった結果じゃない。やればできる。」と誤魔化して言い訳にしてきた。一体お前は何様な人だと過去の自分に言いたいものだ。だから作中の瑞月の「十点でも二十点でもいいから、自分の中から出しなよ。自分の中から出さないと点数さえつかないんだから。」という言葉には

ハッとさせられた。私は完璧主義者でもある。自分の中で百点満点の納得したものしか、外部に向けて発信しない。だからといって納得できないものがあったとしても、それをよりよいものに昇華させるために努力を積み重ねることも嫌う。こういった二つの弱さが原因で、私は今まで何も達成することができず、心の底から悔しいと思える経験もできなかったのだと気付かされた。高校生というまだまだ未来のある今この時期にこのことを知ることができたのは幸いだ。今までの自分を見つめ直しやり直すチャンスがあるからだ。これからは他人を否定することではなく、自分が行動し変化することで、今までの空虚な「何様」から「何者」かに成れるようにしていきたい。

作中では、SNS社会で正しい判断をするための肝となるような言葉もあった。「ほんの少しの言葉の向こうにいる人間そのものを想像してあげろよ。」これがその言葉だ。この言葉には大いに納得させられた。短く簡潔に自分を表現しなければいけなくなったのならば、そこに選ばれなかった言葉の方が圧倒的に多い。ごく当たり前のことだ。だからこそ目の前にある情報だけでなく、その行間の伝えきれなかったであろう思いを想像し捉えることが大事なはずだ。これは他のことに置き換えても言えることだと思う。表面にある情報だけで知覚できることなどその物事の断片でしかない。例えば、この読書感想文もそうだ。溢れ出る思いを短くまとめることに苦悩している最中だ。是非私の思いを想像して読んで頂きたい。

時も場所も超えて様々なことを知ることができる便利な世の中になった。だが単なる知識を得るだけならばロボットなどの機械で事足りる。我々人間は、知識の向こう側にある更なる本当の姿を想像できるはずだ。それこそが本来の知ることであり、楽しむことであり、人間を人間たらしめる唯一無二のものであり、そしてこれから変わりゆく世界で大切なことだと、私はそう信じている。

三重県審査 優秀賞

特攻隊から学ぶ

(対象図書：『不死身の特攻兵 軍神はなぜ上官に反抗したか』鴻上尚史著 講談社)

1年5組 魚住るり（西橋内中）

「特攻の目的は戦果にあるんじゃない。死ぬことにあるんだ」私は強い衝撃を受けた。この言葉は、栈橋に体当たりしろと命令された大尉が飛行長から言われたものだ。当時、特攻は新聞に多くとりあげられた。新聞を読んだ国民は、若い兵隊が祖国のために率先して身を捧げていることに感動し、戦争継続の意思を強くした。これによって、特攻というものは「死ぬこと」が大切に考えられるようになったのだ。信じられないと思った。命がどれだけ軽視されていたんだろうか。私は恐怖で身震いした。

特攻の体当たりは、理論的に考えて効果のないものだった。急降下で突っ込んでも、翼によって空気揚力が生まれ、機体は浮く。爆弾の落下速度の半分になるのだ。また、軽金属の飛行機で空母の鋼鉄の甲板に突っ込むことは無意味でしかない。様々な理由から、ある大尉は特攻を「卵をコンクリートにたたきつけるようなものさ。」と言った。そのような体当たり攻撃で、何人もの兵士が命を落としたと思うと、悔しいばかりだ。第三陸軍航空技術研究所は、理論的に都合が悪くなると、「崇高な精神力は、科学を超越して奇跡をあらわす」と言ったという。何が精神力だ。激しい怒りが湧き上がった。

特攻兵として九回出撃し、九回帰還した佐々木伍長。私は佐々木伍長の信念を貫く姿に感動した。「私は必中攻撃でも死ななくてもいいと思います。その代わり、死ぬまで何度でも行って、爆弾を命中させます」怯えずにそう宣言する姿には心を打たれた。何度も「死んでこい！」と命令されても生きて戻ってきたのだ。自分の、大切な命だ。そう簡単に失いたくない。しかし私が佐々木伍長だったら、帰還後責められるのが怖くて、投げやりに

なって体当たりしてしまうだろう。佐々木伍長の強さは、私にはないものだった。

私の胸を強く締めつけたのは、岩本大尉の話だった。体当たり攻撃を否定するために跳飛爆撃に尽力した岩本大尉は、陸軍最初の体当たり部隊の隊長に指名された。最も優秀な操縦者であるのに特攻兵に選ばれたのは、跳飛爆撃の名手である岩本大尉が特攻隊になることで、特攻しかないという風潮をつくる狙いだったという。狡猾な心理操作だ。それまでの跳飛爆撃の訓練はなんだったのか。特攻への出発の前夜、岩本大尉は妻と共に泣いた。読んでいる私も涙が止まらなかった。大切な人を一人残して死ぬ苦しさ。大切な人が明日いなくなってしまう苦しさ。両者の思いが身につまされてならなかった。しかし、それだけでは終わらなかった。岩本大尉は、儀式好きの司令官から宴会のために呼び出され、向かう途中でアメリカ軍戦闘機の射撃により亡くなった。あまりにも辛かった。なんで、どうして。私の感情は激しく渦巻いた。「同じ死ぬなら、できるだけ有意義に死にたいだけさ。」そんな言葉を残した岩本大尉は、宴会のために死んだ。司令官の理不尽な命令を恨むほかなかった。

特攻は遠い昔のこととなってきた。しかし、本書中のある記述により、昔のことにはしてられないという危機感が生まれた。それは、2016年、自衛隊員に駆け付け警護の参加を問うアンケートで、「行かない」を選ぶと、上司から延々と問いつめられたというものだった。特攻兵は「志願」という形で出撃したとされている場合が多いが、実際は志願するまで怒鳴りつけられるなど、志願に見せかけた「強制」だった。この二つの事実はぴったりと重なった。「変わっていない」という現実は恐ろしかった。

そして、著者により新たに気づかされたことがある。炎天下の甲子園の継続は、特攻の続行と似ているということだ。何人が熱中症で死ねば、炎天下の甲子園を命令している側は見直し始めるのかと。新しい視点だった。私は「夏といえば甲子園」と思っており、何も抵抗を感じていなかった。そんな自分を恐ろしいと思った。戦中に生きていたら、特攻が続行されることにも抵抗を感じていなかったかもしれない。自分が「世間」の掟を変える立場にはないと誰もが思い止められなかった特攻のように、甲子園は炎天下で続けられるのだろうか。

本書は、私にとって重たい一冊だった。知らなければならないことを知ることができた。過去があってこそ未来は創られる。これから未来を創る私たちは、過去を知り学ばなければいけない。多くの人の未来への願いが詰まった過去は、数えきれないほどあるだろう。その過去を知ることが、今を生きる私たちの義務ではないか。

また、私は信念をもった人間になりたいと思った。風習に流されない人間でありたいと思った。変化の中でも守り抜く確固とした自分を持ち、冷静にものを見ることが出来る人間に必ずなろうと思う。

原田 茉奈

(橋南中学校)

第30回 読書感想画 三重県コンクール 高等学校

指定読書 最優秀賞

私は学生たちがナチスに対して反対しようと思った勇気に圧巻された。特にもともとはナチス側についていて、過ごしていくうちにナチスに違和感を感じ、反対運動に動いたのは予想外の展開だった。その中で私は、万歳ヒトラーという意味の「ハイルヒトラー」という言葉と、ビラの名称である「白いバラのビラ」という言葉が印象に残ったので、絵に表した。本来ならバラは白色だが、ナチスの残虐さを出すために赤色にした。



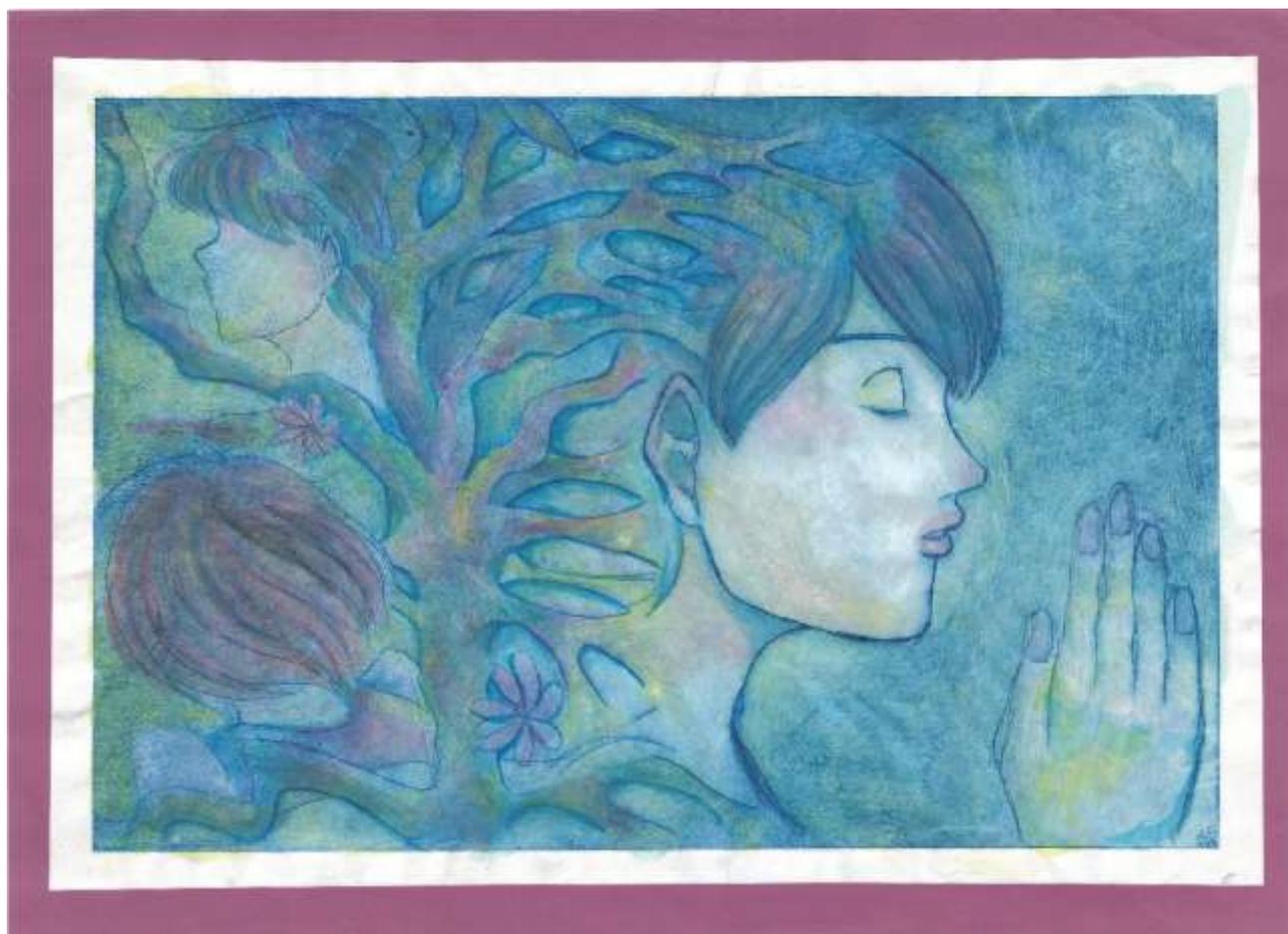
諸戸 渚沙（三重大学教育学部附属中学校）

第30回 読書感想画 三重県コンクール 高等学校

指定読書 最優秀賞

「100年の木の下で」

この本は、中心人物である森家の女性たちが、お地蔵さんと栗の木をめぐって変化し、影響しあうというお話です。彼女たちは家族ですが、お互いの過去をよく知っているわけではありません。私は、同じものにふれて成長する姿に血のつながりを感じ、お地蔵さんと栗の木のパワーの強さが深く印象に残ったので、それを絵にしました。一枚の絵にたくさんの要素をつめる必要があったのでとても悩まされました。



「みえの森」の写真を撮って

西川 充希（橋北中学校）

写真の撮影を通じて森林や木に親しみ、その大切さを知ってもらうことを目的に、「三重の森林」をテーマとして開催されている「みえの森フォトコンテスト」。その前身である「森林とのふれあいフォトコンテスト」から数えると10年以上続く県内の写真コンテストです。

私は、以前から昆虫の調査や採集を続けているので自然が多い場所に出かける機会も多く、その際に撮影した写真を応募したところ「第5回みえの森フォトコンテスト」で「入選」をいただきました。

森や林の中でしか出会えない風景はたくさんあります。木々と光が見せてくれる美しさや異種類の樹木や草木の関わり合い、足元から見上げたその先まで四角で切り取って見ると気づきがたくさんあります。見ようとするだけでしか見えないものを発見するのは、採集でも写真でもワクワクします。

入賞した作品は1年かけて県庁や三重県総合博物館など県内の様々な場所で展示されます。それを見てひとりでも森に出掛けようと思ってくれる人がいてくれたらと思います。



「背比べ」

齋藤 葵 (久居東中学)

(みえの森フォトコンテストについて)

森林は、わたしたちに木材やおいしい水、きれいな空気を与えてくれるほか、豊かな生態系を育み、地球温暖化や自然災害の防止にも役立っています。写真の撮影を通じて森や木に親しみ、その大切さを知っていただくことを目的とした「三重の森林」をテーマにした写真コンテストです。

(応募のきっかけ)

私が最初に『みえの森フォトコンテスト』を知ったのは、中学1年の夏休みの宿題の応募作品一覧で見たのがきっかけでした。

三重県は森が豊かで、南北に長細い地形から街から森まで近いという印象です。

私は小さいころから夏になると毎年のように川に遊びにいらっていたので、森とその恵みを受けた川をととても身近に感じていました。

特に大台町の奥伊勢フォレストピアの森、藪川は大好きな場所の一つです。

この1回目の応募をきっかけに森の写真に興味を持ち、森に出かけたときは写真を撮るのも楽しみの一つとなりました。

今回の応募が3回目なのですが、行くたびに違う表情を見せてくれます。晴れた太陽が作り出す鮮やかな緑、雨の水でいきいきとした葉、川も穏やかな流れ、雨が降ったあとの躍動感のあふれた流れ。

今回受賞した作品は、これまで来た時とは違った水を湛え、太陽の光を浴びた躍動感のある川の一瞬を写真に切り取ったものです。

(まとめ)

来年も是非応募したいです。皆さんも是非応募してみたいはかがでしょうか？

三重県の豊かな自然を感じることができるかもしれませんよ。

第5回みえの森フォトコンテスト受賞作品 『輝く大自然』

(作品の説明)

大台町には今年の夏も幾度となく大雨が降りました。

土砂崩れや川の増水は恐ろしく、私たち人間にはどうする事も出来ません。

でもやはり自然は美しいです。

私が訪れたのは雨が続いた後だったので水が多く、流れも速くなった川に太陽の光が反射して、いつにも増してキラキラと輝いていました。そのキラキラ感、躍動感を撮りたくて水面に近いところからシャッターを切りました。

時に恐ろしく、しかし私たちにたくさんの恵みを与えてくれる自然と共存していくことが大切だと思います。

